

この全国大会は、公益財団法人 河川財団の河川基金の助成を受けています。

川に学ぶ体験活動 | 第22回全国大会 | Echizen Wakasa

“川の体験”ノウハウ大百科

—安全に体験できるように、私たちがやることは—



第22回「川に学ぶ体験活動」
全国大会 in 越前若狭

報告書

2023年 **10月21日** 土・**22日** 日

会場 / 福井県織協ビル 10階ホール

2024年3月16日 北陸新幹線 金沢—敦賀間 開業



主催 / 第22回「川に学ぶ体験活動」全国大会in越前若狭実行委員会
共催 / 特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会
後援 / 文部科学省、国土交通省、環境省、福井県、公益社団法人日本河川協会、公益財団法人リバーフロント研究所、一般財団法人河川情報センター、福井県アウトドア協会、福井新聞社、NHK福井放送局、FBC、福井テレビ、FM福井、URALA



OFFICIAL HP
全国大会の公式 HP



河川
基金

目次

2023
10/21
SAT

サイトツアー	1
メダリストを輩出するまちづくり「パドリングビレッジ」を視察	
開会式	2
挨拶 NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 代表理事 宮尾博一	2
ご祝辞 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 豊口佳之氏	3
ご挨拶 福井市長 東村新一氏	3
基調講演	4
Kazu 氏（福井育ちの超行動派動画クリエイター） 演題「私達が発信者」	
劇場型クロストークショー	9
タイトル「“川の体験” ノウハウ大百科」	
コーディネーター 下川 勇氏（福井工業大学工学部 建築土木工学科 教授）	
パネラー Kazu 氏	
大内雅司氏（NPO法人ダウン・ザ・テッシ）	9
住吉利允氏（くりこま高原自然学校）	10
二瓶重和氏（阿賀川・川の達人の会）	11
小畑明日香氏（白馬ライオンアドベンチャー）	11
平岡和彦氏（株式会社カンパネラ）	12
坂本 均（ノーム自然環境教育事務所）	12
司会 田中彩愛（一般社団法人環境文化研究所）	
まとめと閉会式	19
まとめ NPO法人小貝川プロジェクト21、RAC企画総務部会長 齋藤 隆氏	19
大会宣言 実行委員長 坂本 均	19
次回開催地の発表／フラッグリレー	20
閉会の挨拶 実行委員長 坂本 均	20

2023
10/22
SUN

交流会	21
エクスカージョン	
Aコース：まちなか足羽川パドリング川下り	23
Bコース：フリースタイルカヤック観戦とチャレンジ	24
Cコース：九頭竜ダム湖ジオツアー	25
Dコース：竹田の龍ヶ鼻ダムで冒険カヤック	26
Eコース：永平寺町での「禅と酒と食」を体験！	27
Fコース：縄文ロマンパークで悠久の時を感じよう！	28

OTHER

アンケート結果のまとめ	29
協賛	31
RAC インフォメーション	37
RAC の紹介、設立の背景、活動の目的、第 20 回日本水大賞 全国大会（川に学ぶ全国交流会・川に学ぶ体験活動全国大会）の開催	

はじめに

全国大会の目的と背景

NPO法人川に学ぶ体験活動協議会（以下、RAC）は、子どもを始めとする川の愛好者に対して、安全対策、川の文化、教育方法などを提供し、川の指導者を養成する全国唯一の団体です。毎年RACと全国各地の流域が共同で「川に学ぶ体験活動全国大会」を開催しており、2001年から続いています。この大会では、全国各地の川の指導者が集まり、環境保全、教育、防災、地域づくりなどの課題について情報を共有し、ネットワークを強化することが主な目的です。

今大会のポイント

新型コロナウイルスの影響で新しい生活様式が求められる中、アウトドア活動が急速に人気を集めました。それと並行して、水辺を活かしたまちづくりも進展し、川岸や湖畔がより身近な存在になってきました。

しかし、その一方で、安全対策やルールについての知識が不足しているために事故やトラブルが発生するケースが増えています。2023年は、ライフジャケットの重要性に対する認識不足が原因で、水難事故で多数の命が失われるという悲劇も発生し、私たちは、安全対策や地域ごとのルールについての教育が不十分であると感じました。

そのため、今回の大会では、「川に学ぶ体験活動」に関わる指導者、専門家および行政関係者などが一堂に会し、問題点と解決策を共有しました。主なプログラムには、基調講演、事例紹介、現場を視察するサイトツアーやクロストークが含まれ、参加者が具体的な解決策を見出せるように企画しました。

今回の大会を通じて、関係各方面とのネットワークをさらに強化し、持続可能な「安全な川づくり」を推進することを目指しました。

初日の基調講演やクロストーク、2日目のエクスカージョンなど、ご参加された皆様からのアンケート結果では、楽しく有意義であったことと今後の課題についてもご意見をいただきました。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり多大なるご支援、ご協力、ご協賛を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

第22回「川に学ぶ体験活動」全国大会in越前若狭 実行委員会
実行委員長 坂本 均

■ メダリストを輩出するまちづくり「パドリングビレッジ」を視察

ガイド：松永和也氏，大谷祐司郎，林 尚典，銅 幸久，丸中孝通
担当：大門正悟，大川拓哉 記録：林 尚典，銅 幸久
参加者：38名

パドリングビレッジ構想

九頭竜川は、福井県内随一の大河で、全国からアユやサクラマス釣りが訪れ、特にサクラマスを釣る方々には「聖地」と呼ばれています。また、九頭竜川に生息するアラレゴは特に成長が良く大型で、生息地が国の天然記念物に指定されています。

この九頭竜川の中流域に位置し、曹洞宗の大本山「永平寺」で有名な永平寺町では、川を活かしたまちづくりが進められています。

九頭竜川には、カヤックに最適な場所があることから、永平寺町在住で、フリースタイルカヤックの国際大会に毎年出場している松永和也選手の発案から、「九頭竜川でカヤックが出来るようにしよう」との機運が盛り上がり、2019年に、永平寺町長を会長に、企業、民間団体、福井河川国道事務所、福井県、永平寺町等からなる「九頭竜川かわとまち協議会」を組織し、「永平寺町からメダリストを出そう」をテーマにパドリングビレッジ構想を立てました。現在、観光と併せた川を活かした魅力あるまちづくりを進めています。

協議会では、水力発電所からの放流水を活用したフリースタイルカヤックの拠点「ナミノバ」と、鳴鹿大堰の湛

水域を活用したカヤック初心者向け拠点「シカノバ」を整備しています。

ナミノバ

フリースタイルカヤックは、激流の中にとどまりながら操艇技術や繰り出す技の格好良さを競う種目で、「水上のロデオ」とも呼ばれています。

ここナミノバは、関西電力市荒川発電所からの放流水が年中安定的に流れ、九頭竜川に合流する場所となっており、フリースタイルカヤックをするには全国的にも数少ない絶好の場所です。より競技にふさわしい流れを生じさせるために、クラウドファンディングにより資金を調達し、コンクリートブロックを設置しました。

また、永平寺町が、河川敷の一部を大会運営本部スペース兼駐車場のため舗装し、福井県が護岸で観戦出来るよう階段式護岸を設置するなど協力して整備されました。現在、フリースタイルカヤックの国内大会や体験教室などが開催されており、今後は国際大会の開催を目指します。

シカノバ

九頭竜川鳴鹿大堰（農業・水道用水を取水）の上流に位置するシカノバ。水深が深く流れが非常に緩やかで、カ

ヤックやSUPの体験や練習に最適な場所です。2023年4月よりパドリングスクールが開校し体験会や練習が開催されています。現在、旧工場をリノベーションし、パドリングアクティビティの拠点となる「九頭竜川パドリングセンター」を、クラウドファンディングと地元企業からの寄付金により整備中です。また、福井河川国道事務所の協力により、河川巡視や水質事故対応の簡易船着場を整備中です。

ツアー参加者の感想

- 官民協働で知恵を絞るいろいろなアイデアを出して取り組まれているところが良い。
- クラウドファンディングによって、河川内のブロックを設置することが素晴らしい。
- 行政が、簡易船着場を整備出来る理由（河川管理上必要な行為：河川巡視や水質事故対応等）を整理しながら、民間でも補助金を活用し、スクール整備を試みている良い事例だと思った。

■ 開会の挨拶

挨拶：NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 代表理事 宮尾博一
司会：田中彩愛 記録：谷美沙希
参加者：112名

本日は、国土交通省河川環境課長の豊口様、福井市の東村市長、福井県土木部の田中理事にもお越しいただき、北は北海道、南は九州まで遥々全国からお集まりいただき誠にありがとうございます。

この越前若狭大会の開催は、昨年10月に東京の全国大会にて決定し、1年をかけて、地元福井を中心とする実行委員の皆さんのご尽力により、本日開催となりました。

私は、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会（以下、RAC）の代表理事として今大会の副実行委員長に名前を連ねておりますが、ほとんどの準備を地元の実行委員と運営委員の皆様で準備をさせていただきました。感謝申し上げます。

さて、川に学ぶ体験活動協議会の設

立は1997年の河川法の改正がきっかけとなっております。それまでの河川法では「治水」と「利水」が目的になっていましたが、そこに「環境」が加わりました。環境とは、川の環境を整備するという意味もありますし、生き物に優しい環境というもあります。そして、人を育てる、川に親しむということも環境の一つであり、そのためには川の指導者を育成しなくてはならないのではないか、ということでRACが生まれました。建設省（現国土交通省）が「川に学ぶ社会を構築する」という施策を打ち出し、RACはそれを具現化する実行部隊でもあります。全国の川で活動する人たちを束ね、指導者を育成するためのナチュラルスタンダード（基準）をつくって、RACは活動してまいりました。

ところで、現在、国土交通省におかれては令和6年度に川の指導者育成事業が予算として要求されています。川の指導者育成事業という名目での予算要求は、私の知る限り初めてで大変驚き、有難く思っています。

川の指導者育成は、RACとここにおられる皆さんの協力なくしては出来ません。皆さんがこの国土交通省の施策である指導者育成を、お互いが仲良く協力し合ってやっていくということがとても重要だと思っています。今年の水難事故も多く発生したため、今年大会でも水難事故防止が大きなテーマとなっています。この全国大会が有意義なものになるように、皆さんぜひこの2日間でお互いに交流し、良い全国大会にしていきたいと思います。



会場の様子



宮尾RAC代表理事の挨拶



受付の様子



全国からお土産をたくさんいただきました



ナミノバを見学する様子



シカノバを見学する様子

開会式

■ 来賓のご祝辞

ご来賓：国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 豊口佳之氏
記録：谷美沙希

皆さんこんにちは。先ほど宮尾代表からもありましたが、来年度の予算についてお褒めの言葉をいただきました。ありがとうございます。おっしゃられたとおり、国土交通省が「防災」や「減災」に力を入れております。一方で少子化などの社会問題も抱えており、こちらも非常に大事なことだと考えております。その中で、「こどもを産む」という行為も大切なのですが、安全に育てていただく環境を整えることも、少子化対策に含まれているという思いを持っております。今年も水難事故が多発しておりますが、そういったことが無く、安全に健全にこどもたちが育っていただくことを後押し出来ればと考えております。外から襲われて命を失うこともあります、自らの活動で命を失うことが無いように、備えていただきたいと思います。次

第です。

ところで、本会の開催にあたりまして、実行委員会の皆さんには大変なご尽力をいただき、このように盛大に開催されたことをお慶び申し上げます。

この会場は、福井県織協ビルという名称で、繊維産業が福井県の地場産業、ということ。作家の池井戸潤さんが執筆された、「下町ロケット」の続編として「下町ロケット2 ガウディ計画」という作品があります。ロケットエンジンを制作している佃製作所に、お医者さんと福井の繊維メーカーの方が訪ねて来て一緒に医療機器を開発するというお話です。小さなこども用の心人工弁を作るには伸び縮みする繊維が必要であるということ、福井の繊維メーカーとロケットエンジンメーカーとお医者さんが共同で、心臓の医療機器を開発するという

ものでした。こどもの命を守るために、一見何の関係もない人たちが共同するということが、こどもの安全に向けてRACと、我々行政機関、国も県も市も含めて、民間の方々と一緒に活動しているという姿が非常に重なり、このビルに入ったときに感じました。

この2日間で、有意義な会になることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



豊口河川環境課長のご祝辞

■ 歓迎のご挨拶

ご来賓：福井市長 東村新一氏
記録：谷美沙希

「第22回川に学ぶ体験活動全国大会in越前若狭」が盛大に開催され、全国各地の川をフィールドとして活動されている皆様がお集まりいただきありがとうございます。皆様に福井へ来ていただき、心より歓迎申し上げます。福井県での開催は、平成16年に日野川流域の南越前町での開催以来19

年ぶりとなります。現在、福井市では関係団体と地域の方々との連携のもと、河川の環境保全と利活用、水辺空間の賑わい創出などの取り組みを積極的に進めております。

市内中心部を流れる足羽川は、令和2年に「都市・地域再生等利用区域」に指定され、「足羽川アクアテラス」という名称で、まちづくり福井株式会社がカヤック体験やキャンプイベントなど多くの催しを実施しております。また、本大会の事務局である環境文化研究所様をはじめ、多くの団体の皆様が流域での自然体験学習や、SUPなどの川を活かしたスポーツに市民の皆様と取り組まれ、地域活性化や観光振興にも大きく寄与しています。今後ま



東村市長の歓迎のご挨拶

ご来賓：福井県 土木部理事 田中克直氏，福井県議会議員 細川かをり氏
ご祝電：参議院議員 足立敏之氏，参議院議員 滝波宏文氏

基調講演

■ 「私達が発信者」

講演者：福井育ちの超行動派動画クリエイター Kazu氏
司会：田中彩愛 記録：谷美沙希

今回は演題が「私達が発信者」ということで、まず自己紹介をさせていただきます。15年くらい前からYouTubeを始めております。

私がなぜYouTubeを始めたのかをお話しします。幼少期の記憶でいうと、運動がすごく苦手で自慢ではないですが運動では人の背中しか見たことが無い。他にも勉強もそんなに良くなく、一番の問題点はコミュニケーションや人前で喋ることが苦手なところでした。大人になってからもすごく苦手でした。そんな時に会ったのがYouTubeで、ただの一般人がインターネットに顔をさらして喋っているということにすごく違和感を覚えました。今だとYouTube、TikTok、Instagramなど、みんなが自分の顔を映しながら出ているのが当たり前だと思います。当時は自分の顔をさらす、ましてやそれで喋るとするのは普通ではありませんでしたが、これなら人前で喋ることが出来るようになるんじゃないか、と考えました。人前で喋ることだけでなく、物事を分かりやすく伝える、自分の思っている通りに伝える、この能力が著しく欠損していたため、人前に立つと緊張して喋れなくなっていました。なので、YouTubeで練習すれば何とか出来るんじゃないかと思約15年が経ち、今に至ります。

今回特に伝えたいのが、やる気さえあればある程度人前で喋ることが出来るようになる、そしてネット上で正しくある程度伝えられるようになるという、私の持論です。私は幼少期目立つ存在ではなく、大人になってからYouTubeをやっていることを先生に伝えても、「え、お前があいつなの？」と驚かれたり忘れられているような存在でした。これだけスペックが低い自分が出るのだから、おそらく皆さんはそれ以上に出来ると思います。

今回、正しく伝えたい・自分たちが発信者ということで、みなさんはリーダーになって、災害や水、海、山での危険性などをお伝えになると思いますが、どうしても「分母」が少ないという問題点があります。目の前の10人20人にしか伝えられない、何年もかけて何十回もかけて、せいぜい数千人、いっても万単位。しかし、SNSを使うことで数千人、数万人、はたまた何百万何千万人に見てもらえることが出来ます。私の思いとしては1人か2人、うまく出来る人が出るというかなと思ったので、今日はガジェットを持ってきました。ぜひ後で前に出て来てください。講演を聞くだけでは出来るようになりません。私の経験上、気持ちが続かなくてやめてしまう人がいます。なので、ぜひ気持ちを強く持ってほしい。みなさんは、水の怖さとか伝えたいものがあると思いますが、会社を運営されている方もいらっしゃると思いますので、今回は伝え方というのをお教えします。水辺の危険性も伝えることが出来ますが、自分の村やまちの良さ、自分の会社の良さなどをアピールしたり、自分のところで作って

るもののアピールをしてさらに売れるようにしたりなど、そういったことにもつながりますので、ぜひ興味のある方はよろしくお願ひします。

ガジェット紹介

今日は家からいろいろと持ってきましたが、今回は水に関わる方が多いと思いますので、いろいろ聞いていきたいと思います。おそらく私が福井県で一番ガジェットをたくさん持っています。いろんなものを試しに試した中での選りすぐりなので、皆さんが何百万何千万もお金を使う必要はありません。

GoPro：多分一番人気。みなさんも持っておられる方がいますね。おそらくガイドの皆さんは、水の怖さを表現する撮影をする時に、機材を水ポチャすることがあると思います。私たちの業界でも、水の中を専門に撮影される方もいますが、iPhoneなどでは撮影しません。落としたり拾えなくなりますし、自分のメインスマホだと個人情報なども入っており、二度と取り出せなくなるリスクもあります。なので、基



© UUUM



Kazu氏の基調講演の様子



本的にはアクションカメラを使うことが多いです。水辺での撮影で気にするのは、いかに楽に撮影することが出来るのか。一眼レフは画質はいいが、撮り回しが悪く、リスクが高すぎます。さらに、最近だとGoPro以外にも面白いものがあります。

360度カメラ: 所有されている方はまだ少ないと思いますので、いろいろとデモンストレーションをしてみたいと思います。選挙などでもこういったものを使うと伝わりやすくなると思います。

基本的にカメラはアプリを繋いで使うことが多いです。360度カメラは防水で、どこか一箇所に固定するだけで、前や横、頭の上も撮影が出来て、魚眼のように撮ることも出来ます。海辺や川での撮影は、かなりスキルが必要で、今日のオープニングムービーも頑張って撮影されたと思いますが、こういうものを使うことでさらに少人数で撮影出来たり、1人でも撮影が出来



360度カメラで会場を撮影中

たりします。さて、それでは、撮影機材をどんどん紹介していきます。

GoPro: HERO11になってから、正方形の画角での撮影が可能になりました。先ほどの360度カメラも良いのですが、デメリットとして画角が広い分、容量を食うということがあります。また、編集の際に一部の画角を切り出す作業が非常に面倒なため、作業が増えます。たった一人で仕事をする人に

とっては大変で、隙間時間で編集するにはデータが重たいです。そこでお勧めするのは、このようなアクションカムです。価格も少し安めです。特徴は、8:7のほぼ正方形の画像が撮れることです。なぜこれがメリットなのか。今GoProを持っておられる方はおそらく古い型だと思いますが、広角で撮影をしていると意外と、ある一箇所が画角に入っていないということが多々あります。私たちは、正方形の画角で撮影することで、上側だけを使ったり下側だけを使ったりします。ショート動画でも有効に使うことが出来ます。

YouTubeやInstagramが使われる方がいらっしやと思います。皆さ



GoProで会場を撮影中

んSNSアカウントはお持ちでしょうか。始めはおそらく、再生数が0人から1,000人に行くまでが難しいと思います。大事なのは、見てもらう努力です。出来れば100回より1,000回見られる方が良いでしょう。どうすると見られるのか、というのが重要になります。一番いいのがショート動画です。

現在、子どもの8割がショート動画を見ていると言われています。皆さんもご存知の動画だと、ダンスを踊っているものなどがあります。ショート動画の一番いいポイントは、登録者がいなくてもリールに表示されることです。100万人登録者がいる人が有利なのは当たり前ですが、登録者が0人でもショート動画はみんなに平等な権利を与えてくれます。その中で面白

ければたくさん表示されます。SNSによっても違いますが、TikTokだとランダムに100回、誰にでも見てもらえるチャンスがあります。その中で視聴回数の多さや最後まで見てもらえる率の高いものが、トップに表示されるようになります。つまり、フォロワーがいなくても見てもらえることが出来ます。皆さんが今やるべきことは、ショート動画を作って最後まで見てもらえる動画づくりをし、一般の方や子ども達に届けるということです。

ショート動画を撮影する際の注意点です。つついスマホを横向きに撮影しがちですが、今の基本は縦向きではなく縦向きです。縦で動画を撮る時代がやってきているので、縦で撮影・編集し、アップロードして水の危険性やまちの良さを伝えていく時代になっています。

アタッチメント: 次はアタッチメントの紹介です。今回ぜひ手に取って見ていただきたいです。

こちらは、小さい三脚です。小さいですが棒がかなり伸びるのがポイントです。三脚もカメラですが、水につけたときは必ず、水を入れたバケツに1時間は浸けて塩抜きや泥抜きをしてください。

次はこちらです。頭にカメラをつけるアタッチメントもありますが、こちらは口に咥えるタイプのマウスバイトです。一部がゴムになっていて簡単に撮影が出来ます。

こちらは、自由自在に角度を変えられる三脚です。船やポールに巻きつけて固定出来ます。こうするだけで、船の前や後ろに取り付けることが出来ます。

こちら三脚です。海辺で三脚は使いたくないと思いますが、これは(自撮り棒のように)自由に伸びて、先端のアタッチメントをワンタッチで交換

することが出来るのですごく便利です。こういった手持ちの三脚だと、片手が使えなくなりますよね。こちらは、首に固定するアタッチメントで、自分の主観視点で撮影が出来ます。どうしてもブレが気になるという場合には、付属のひもで体に固定させることで、走りながら撮影も可能になります。水辺の危険な瞬間がいつ来るかわからないので、危ないと思った瞬間にボタンを押すだけで撮影が可能です。これは、カメラの脱着が簡単なので、街中を歩くシーンではパッと外すことが簡単にできます。

こういうガジェット紹介を普段の生活にも活かしていただきたいです。私も娘の運動会で、専用のカメラマンよりもいい機材を持って、上空から玉入れを撮影したりもしました。周囲からは驚かれますが、親御さんにもすごく喜ばれました。

また、SNSにアップした動画のコメントから、世間一般の意見を知ることが出来ることも良い点です。

では実際に皆さん前に出てきて手に取ってみてください。

ガジェットの質問

Q.一番よく使うのはどれですか？

A. HERO12(GoPro)とOsmo Action 4(DJI)の2種類のアクションカムです。撮影のしやすさはGoProですが、例えば真夏に使ったり、長い時間撮影するにはDJIが良いです。アクションカムは防水で堅牢性が高い反面、熱がこもって触れないくらい熱くなり止まってしまうことがあります。Osmo Action 3,4(DJI)は熱耐性に強く、直射日光でも30分、動きながらの撮影なら1時間は大丈夫です。

Q.冷たい環境で撮影可能ですか？

A. はい、大丈夫です。マイナス10°Cのスキー場でも撮影しています。マイナ



アタッチメントだけでもかなりの量

ス20°Cになってくると、バッテリーが持たなくなるので、例えば直前までポケットで温めてから撮影をします。価格もDJIのほうが安いです。また、最近はスマホにも手振れ補正がありますが、アクションカムは走っていても、スマホとは比べ物にならないくらい一切揺れない映像になります。

Q.似たようなガジェットがありますが、いつもどうやって選んでいますか？

A. 見分け方は特にはないです。やっぱり買って使ってみること。皆さんは多分そんなにお金を使うと家族に怒られると思います。長く使われるならDJIをおすすめします。



参加者が実際にガジェットに触って体験タイム

Q.インタビューするとき、カメラをつけたままでお話を聞くには？

A. インタビューの時に首に固定するアタッチメントを使用すると、声の大きさに問題が出ます。出来るだけ、小さな声で喋ってもらいましょう。首に固定すると自分の声がすごく通ります。そのため、話をする際にはハンドマイクが無くて問題ないです。

Q.アタッチメントはメーカーによって違いますか？

A. アクションカム系はGoProのアタッチメントを使うことが多いです。変換するためのアタッチメントが大量にあるので、何を買っても一応使えます。基本的にGoProのネジ締めタイプが主流ですかね。

Q.ライフジャケットの上からでも、固定できますか？

A. 結構ゴムが伸びるので、おそらく大丈夫だと思います。もしくは痩せてください。あとは、ライフジャケットの内側を通すというのもアリかもしれません。

Q.撮影中に風の音などの雑音が入ったりしませんか？

A.風の音は意外と小さかったりします。自分の声のほうが大きく入るので結果的に大丈夫なことが多いです。

Q.接写は出来ますか？

A.アクションカムで接写は出来ません。接写はスマホとかのほうがいいですね。あくまでも今回はアクティビティ中の撮影ということで紹介しています。

普段から撮影される人にとって、「こういう撮影が難しかったんだよねー」という課題に対しては、これらのガジェットではほぼ解決出来ると思います。

編集ノウハウ

ここからは編集です。一発撮りで綺麗に撮影出来ることもあります。プロの技すぎて素人にはなかなか難しいです。私たちユーチューバーでも喋っているときによく噛むことがあります。実は10分の動画でも、人によっては20分、30分撮影していることもあります。そのため編集でカットすることもあります。編集ソフトは、有料のソフトが色々ありますが、最近では若い子や動画クリエイターの中でもスマホだけで編集する人が増えています。そんな中で私がお勧めするのは、CapCutというアプリです。スマホで編集するアプリの一番ポピュラーなものです。これのすごいところは、使ったことが無い人でも直感的に使えるところです。どんな人でも使えるようにユーザーインターフェースが最適化されているので、素人でも簡単に扱えるのが特徴です。そして無料です。使ってみて、さらに凝ったことをやりたくなったら、有料サービスにアップグレードも出来ます。まずは手始めに自分で編集してみて、自分で動画

を書き出して、SNSにアップロードしてみましょう。ポイントは、最初の敷居を一番低くしておくことと長続きします。視聴者が何百万人いる方の中にも、このアプリを使っている方は沢山いらっしゃいます。

ここで皆さんが考えるのは、「どうやってみんなに見てもらえるのか」ということだと思います。より多くの人たちに見てもらいたいというのが人間の心理ですね。どうやって見ってもらうのかで、「すごい編集をしないといけないんじゃないの？」と思う方も多々あります。実は、エフェクトやキラキラした装飾など、こういったものは一切要りません。映像や喋り手さえよければ、動画をカットする作業だけでいいのです。BGMも最悪必要ありません。映像の面白さやテンポの良さ



会場からたくさんさんの質問が出る

が全てになるので、複雑な作業は必要ありません。

動画を最初にアップロードするときの注意点は、「心折れないこと」です。意外と皆さん心が折れます。こんなに頑張ってアップロードしたのに3回しか再生されていない。しかも全部自分…。よくあることです。最初は

まず敷居を低くしてください。撮影してテンポに注意して編集し、完成したらアップロード、それだけで十分です。敷居をどんどん低くしてどんどんアップロードしましょう。たったこれだけです。ある程度動画も撮影出来るようになり、アップロードが楽しくなっていくことが大切です。楽しくないと続けられませんし、視聴者さんからのコメントでやる気も出ます。もっと動画をアップしたい。そうやってきた時にBGMをつけたり、流行している音楽と合わせたりして、紹介動画を出していくことが必要です。アプリの課金をしなくても、チュートリアルに、参考になる動画がたくさんあり、カットするだけからステップアップすることが出来ます。

質疑応答

Q.横方向ではなく縦方向で動画を撮るのが主流という話がありました。やっぱりスマホで閲覧する人が多いからですか？

A.はい、そうです。今の時代に最適化していかないとダメですね。昔はテレビが主流でしたが、今はYouTubeや

TikTokなどが主流になっています。人によっては、地上波テレビを見るのが1ヶ月で5分も無いこともあるようです。時代に合わせて、見る人が多い媒体に対して訴求をしていくことが必要です。YouTubeは横動画(16:9)が殆どですが、トレンドを追うと縦動画で楽しむ方が多いというのが現実で、数字としても出ています。よりたくさんの人に伝えたいとなると、縦動画を軸にするのが良いです。

Q.トレンドを掴むにはどんなことをしたらいいでしょうか？

A.難しいですね。川や海は好きだけどデジタルは嫌い、デジタルは好きだけど川や海は嫌い、そんなことがありますよね。相反する状況では、川や海の良さや危険性を動画にすることは難しいですね。より多くの人に川や海のことを知って欲しいのなら、やはり自分が変わるべきでしょう。トレンドを掴むというか、SNSで川や海の映像を見ることが心の底から好きにならないと、そういう動画を作るのは難しいと思います。やはり川や海のこと、SNSのこともバランスよく好きであることが大切です。

Q.「川にゴミを捨てないで！」などの啓発動画を作りたいとき、どんな形のメッセージの出し方が良いのか、難しいものは見てもらえそうになくて困っています。

A.例えば、私は芝刈りの動画を上げています。芝刈りが好きで、関連動画も枝を切る動画ばかりになっていて、すごく楽しいです。そういう動画でも再生数が伸びるものがあります。再生数が高い動画の真似をしながら、自分の動画づくりに落とし込んでいくという作業が非常に重要です。そうすると、「これすごく再生されているけどなんでなんだろう？」と考えるように

なります。例えば、シリアスな啓発動画なのに再生回数が多いものを見つけたりなど。残念なことにSNSで海・事故・危険性などを検索するとニュース映像ばかりが流れています。今、講演を聞いていただいて、もっとSNSに詳しくなるのであれば、ニュースと並んで個人の配信が載って、正しいことをさらに皆さんに知ってもらうことが出来ると思います。日常の中で、スマホと向き合う時間を増やしたりして欲しい。そうするとより多くの人に伝わっていくと思います。

Q.若い人がテレビや新聞を見なくなる今、SNSを効果的に使うことで、川の危険性などが伝わっていくのだと思って共感を得ました。

私はものぐさなので、スマホも充電をせずに寝てしまったりして、朝起きると充電が無かったこともあります。これだけの数のガジェットの電源管理はどうされていますか。

A.私の場合、充電作業は日本の中で15人以内に入るくらい多いと思います。置くだけで充電出来たり、とにかく簡略化していきます。そこにはお金をかけます。ちょっと面倒になって充電をしなくなったり忘れてしまうこともあります。そのため、充電が楽な



質問の様子

ものばかりを探して購入しています。

若い人がテレビなどを見なくなった話ですが、人にもよりますが最近YouTubeの伸びがいいのは実はご高齢の方で、孫から聞いたりして視聴者

が増えているようです。雑草を抜くだけのチャンネルや、畑のことを伝えているだけのチャンネルもあって、平均年齢70歳以上のチャンネルも沢山出てきています。若い子達だけのメディアではなく、全年齢が対象になってきています。

(以上)



真剣な眼差し

■「川の体験」ノウハウ大百科」～安全に体験できるために、私たちがやることとは～

コーディネーター：福井工業大学工学部建築土木工学科教授, 一般社団法人環境文化研究所理事 下川 勇氏

パネラー：福井育ちの超行動派動画クリエイター Kazu氏
 NPO法人ダウン・ザ・テッシ 大内雅司氏
 くりこま高原自然学校 住吉利允氏
 阿賀川・川の達人の会 二瓶重和氏
 白馬ライオンアドベンチャー 小畑明日香氏
 株式会社カンパネラ 平岡和彦氏
 ノーム自然環境教育事務所 坂本 均氏

司会：田中彩愛 記録：谷美沙希



[司会]さてそれでは、「劇場型 クロストーク:「川の体験」ノウハウ大百科～安全に体験できるために、私たちがやることとは～」を開催します。このクロストークでは、RACの会員団体に体験を申し込んだり、学校の授業で水難事故防止について学ぶ方以外の、いわゆる一般の方が水辺で起こしてしまう事故やトラブルなどについて、RACが今後どのように関われば良いのかを、ご登壇されるパネラーの皆様と一緒に課題解決を目指し、それぞれの流域で活かせるヒントとなることを目指します。コーディネーターは、福井のまちづくりといえばこの方、福井工業大学工学部 建築土木工学科 教授の下川勇様です。

まちづくりに詳しい下川さんが本

日は「水辺の安全」をテーマにコーディネートされるのはどういった繋がりになりますか？

[下川]私はルネサンス時代のイタリア建築や都市の歴史を研究しております。研究は人と自然がテーマになっていて、それについて考えてきました。今回関わっていることが人と自然がどう共生していくのかを考えているので、ぴったりだと思っています。

[司会]下川さんはSUPやカヤックなどもお好きということで、ぜひ今日はユーザー目線でのコーディネートもお願いいたします。

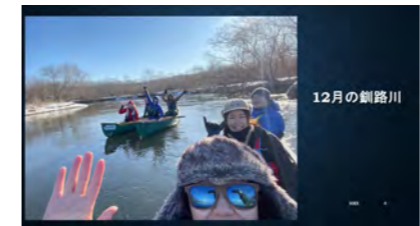
パネラーの活動紹介
NPO法人ダウン・ザ・テッシ
大内雅司氏

私たちは天塩川流域でアウトドアの活動を行っている団体が寄り集まって出来たNPO法人です。主に役所からの依頼を受けて、カヌーの大会を行っています。リスクマネジメントとして、有事の際の保険も兼ねて設立しました。RACの講習会なども行っており、北海道中を飛び回っています。その中で、SUPなどをフリーで行っている方々に対する講習会での意識の変化をご紹介します。

登録料、講習会開催費はいただきますが講習自体は無料で行っており、何度か講習会を案内しましたが、参加されない方は、金銭的な問題・時間的な問題、そこまでなくてもよいと思っていることや、資格内容が分かりにくいなどの理由がありました。スキー

や水泳などはインストラクターなど技術的な資格がありますが、RACの資格はざっくりとした知識としての内容が多いので、解りにくいという意見がありました。その後、SUPをされている方々とお話をしたところ、受講したいと思った理由は、SUP中に危険を感じたからだそうです。風が強いと岸に戻れなかったり、リーシュコードが木に絡まったりという経験があったようです。ニュースで水辺の事故を見たりしたことで、何かしら助かる方法を知っておきたいというような意見もありました。

他団体のインストラクター資格を持っている方でも、ロープレスキューの経験が少なく、レスキューで失敗す



ることが多いそうです。RACの講習会を行った後の感想を聞くと、非常に為になった、道具を持っていても練習しないとうまく使えないというのを再認識した、いざ助けるとなると焦ってしまうなどの意見がありました。

一方で、参加を迷っていた方々の理由が仕事やプライベートの場合、次回に参加される傾向があります。しかし、参加費が高い、見学して面白そうなら受講する、そこまでガチで遊んでいないなどの理由の方は受講しない傾向があります。この様なことが、講習会の開催の中で分かったことです。[下川]非常に生々しいデータで分かりやすかったですね。講習会を受けましょうというスタンスから、そこまで無いというところまで、ひょっとしたら全般的に言えるユーザーの感

想なのかなと思って、解りやすかったです。他に参加者で気になる意見などありましたか？

[大内]アンケートを取った際に多かったのが、犬などの動物を乗せてカヌーやSUPをするときはどうしたらいいかという話がありました。

くりこま高原自然学校
住吉利允氏

くりこま高原自然学校は、宮城県北部の栗駒山の中腹付近で、川の源流部に当たる場所にあり、自然体験や野外活動などを行っています。シャワークライミングや森遊び、沢を使ったアクティビティが中心です。石を積んで堰堤を作って魚を取ったり、リサーキュレーションの構造を作って体験してもらったりしています。他にもラフティングのガイドや湖でのワカサギ釣り体験などもしています。別の活動として、登山や沢の活用なども行ってお



くりこま高原自然学校としての活動

り、登山に行く前にバックパックを使った着衣泳などのトレーニングを行ってから山に入っていきます。こういった活動をしていく中で、今日本のアウトドア業界で流行らせようという動きが出ている「Leave No Trace」というプログラムを、我々の自然学校では賛同しています。これは7つの原則からなる、ルールではなくスローガンです。①事前の計画と準備、②影響の少ない場所での活動、③ゴミの適切な処理、④見たものはそのままに、⑤最小限の焚火の影響、⑥野生動物の尊重、⑦他のビジターへの配慮。

我々がシャワークライミングを行う沢の入り口で焚火やBBQの痕跡、食べ残しがあつたりします。そうするとクマが降りて来る事もあって、他の利用者がリスクを抱えたりすることに繋がるので、十分気をつけようなどということを考えながら活動しています。今ある自然を未来に残すことで、子どもたちや次の世代へ、自然体験活動や川での活動がより良いものになるように、取り組んでいます。[下川]相当幅広いアクティビティとなっていますね。いろいろ実施されているなという印象です。どういったタイプの子どもたちが集まって来ますか？案内などはどうやって出されているんですか？

[住吉]フリースクールの子たちも居ますし、仙台や盛岡などの都市部に居る子どもたちも参加します。リピーターさんが多く、結構クローズではあるのですが、広げていけたらとは思っているのですが、最近はオープンにしています。ですがオープンにすることで、お客様の質も変わってくるので、逆にそこのお客様に対して指導していくことで、ボトムアップさせていくことも僕たちの役割かなと思います。そこに対しても力を入れる必要はあるかなと思っています。

阿賀川・川の達人の会
二瓶重和氏

福島県の会津から参りました「阿賀川・川の達人の会」の二瓶と申します。私たちの事例についてご紹介いたします。阿賀川は会津地方の中央を流れている川で、新潟県に入ると「阿賀野川」と名前を変えて日本海に注ぎます。私たちの会は平成11年にスタートしたボランティア団体で、基本理念は「川に遊び、川に学び、川と生きる」です。会員数は、かつては200人を越えていたときもありましたが、現在は

76人に減少しています。会の目的は、「①河川環境の保全、②自然体験活動(特に安全な川遊びの普及)、③子どもたちの健全育成、④川を活かした元気で活力ある地域づくり」への貢献です。主な活動の1つめは「会津めだか塾」で、これはRACリーダー講座として運営しています。2つめは、子どもたちの川遊びの会の「阿賀川・子どもアドベンチャークラブ」です。暖かくなり始めた6月に「源流体験」で滝を訪れたり、7月～9月には川流れやカヌーをしたり、1月にはスノーシューを履いて「冬の森探検」をしたり、2月には氷結した湖でワカサギ釣りをしたり、3月には雪が解け始めた阿賀川の土手で春の兆しを探したりなど、年間を通して川に関わる活動をしています。その他にも、学校の総合的な学習の時間の支援として水生生物調査をコーディネートしたり、プールの時間にライフジャケット体験をサポートしたりしています。また、保育園の川遊びや高齢者学級でストーンペインティングをしたり、地域のイベントの際にカヌー体験コーナーを担当したり、さらに特定外来生物の駆除や、阿賀川の高水敷に整備されている「イトヨ観察池」の環境維持作業等もしています。

[下川] こういった活動は長くされているのですか。

[二瓶] 活動を始めた当時は、「よい子は川で遊ばない」という看板があちこちに立てられていたこともあって、人々が川に近づかなくなりました。その結果、川が汚れていても誰も気にせず、また汚れている川には行きたくもならず、どんどん人の気持ちが川から離れていきました。

当時の阿賀川工事事務所(現在は阿賀川河川事務所)さんから、「人を川に呼び込みたいが、何かいい方法はないか」という相談を受けて、「川の達人」

を養成しよう」ということになり、そのために『会津めだか塾』を開講したのが、「阿賀川・川の達人の会」の始まりで、もうすぐ25年になります。



[下川] 人の心も変わっていくと思いますが、自然環境も20数年前から変わってきたかと思えます。その環境が昔と変わったなと思うところがありますか？

[二瓶] 私は今68歳ですが、小学生のときに水浴びをしていた川が、高校生の頃には魚も棲めないくらいとても汚れてしまいました。その頃と比べると、最近は流れている水はきれいになりましたが、川岸に生えている植物はガラッと変わり、川の中の生き物もブラックバスなどの外来生物が多くなりました。今は、なんとか少しでも在来の動植物を守っていききたいと思っています。

白馬ライオンアドベンチャー 小畑明日香氏

活動拠点は長野県の北西部にある、北アルプスのふもとに位置する白馬村と大町市です。白馬と言えばウィンタースポーツですが、グリーンシーズンのアクティビティもたくさんあります。中でも人気なのは熱気球です。1998年の冬季オリンピックの舞台となった白馬ジャンプ競技場の麓の広場で体験を行っています。風の安定している早朝のみの体験で、朝日や雲海など、様々な風景が見られるアクティ

ビティです。0歳から体験できて、一度に20人くらい乗ることができます。ペットも一緒に乗れます。インコと一緒に乗った人も中にはいます。次のアクティビティはラフティングです。白馬村内を流れる姫川は比較的浅くて狭いので、岩をすり抜けるようなスリリングなコースで、大町市を流れる犀川は川幅が広くて、上流にダムがあるので水量も安定していて、初めての方でも安心して遊べる穏やかなコースになっています。ちなみに私自身は中学校の修学旅行の時に犀川で体験をして、ラフティングガイドになりました。

姫川は白馬の景色も楽しめて、貸し切りだと4才から体験できます。湖のアクティビティも体験される方が年々増えており、長野で一番透明度が高いといわれている青木湖では、ツアーやレンタル種目を取り扱っています。今シーズンから導入したファミリーSUPは、4人乗りで安定度が高く、小さいお子さんやペットを乗せてのんびりと湖を楽しむことができます。SUPを繋げたり、何人乗れるか試したり、それぞれの楽しみ方で発見できるのがレンタル種目のいいところかなと思います。また、修学旅行などの団体向け種目もあります。筏づくり体験は、4～6人で限られた材料で筏を作り、湖に浮かべて、またほどこいて元の状態に戻すところまでを行います。チームで試行錯誤しながら協力し合ったり、他のチームとの違いも話し合ったりと、チームビルディングの要素も兼ね備えたアクティビティになります。白馬ライオンアドベンチャーは、「初めてを始めよう」をモットーに、子どもたちやアウトドア初心者の方でも安心して楽しめるツアーを開催しています。安全講習はもちろん、少しでも川の知識を付けてもらえるように、ツアー中に川の危険箇所や構



事例発表の様子



造を話したりしています。自分たちの活動拠点だけではなく、アウトドアに興味を持った方が、旅行の後でも正しい知識で遊んで、自然を楽しんでもらい、悲しい事故を減らせるように、日々心掛けてガイドをしています。

[下川] いい写真がたくさんありましたね。土地柄なのかもしれませんが、他の方々はどちらかというと地元の子どもたちを対象にしていた感じですが、今回は観光客やゲストの方が来られて体験していただいて、その短い間に自然体験を通じて安全を学んでいただくような感じでしょうか？

[小畑] そうですね、お盆休みだとファミリーの方が多く、また修学旅行も受け入れているので、その中で安全についてお話ししたりなど、関われる期間は短いかもかもしれませんが、できるだけ多く持って帰っていただけるように気をつけています。

株式会社カンパネラ 平岡和彦氏

アウトドア用品を販売する会社です。屋号はSUNDAY MOUNTAINとTHE GATEを運営しています。福井県坂井市に本社があります。従業員数は118名、福井県内に実店舗を3軒運営しています。設立は2009年6月。写真のようなスタッフが多く、非常に若いです。年間売り上げ32億円、取り扱い18万点、1日あたりの出荷数が1,000件くらいです。3:7で女性が多いのが特徴で、平均年齢が34歳です。日本に入っているブランドの商品はほぼ取り扱っている会社です。

我々のビジョンは、「地方を変える」です。アウトドアを通じて地方を変えるということをやっています。手段はアウトドア人口を増やすことで、アウトドアで地方を変え、発展させていく会社です。二本柱として、Eコマース事業とローカル事業に分かれます。EコマースはSUNDAY MOUNTAINというお店でして、楽天SHOP OF THE YEARを合計6回取得しています。ローカル事業としては店舗運営です。THE GATEという店舗です。ぜひお越しください。どちらかという山の店で、ハイキングやトレッキングを提案しています。THE GATE WAKASAは2年前にオープンしまして、SUPやカヤックを販売しています。Park Coffee & Bagelは、ベーグルを販売しています。公園のような空間を作って、アウトドアをより身近に感じてほしい、そういう思いで飲食店舗も取り扱い始めました。こちらにもぜひお越しください。また、プライベート事業としてDVERGというアウトドアブランドをやっています。福井県の伝統工芸である、越前打刃物と鯖江のめがねのサングラスを使って福井を表現しています。他にもキャンプを身近に知ってもらいたいというイベント、CAMP OF WONDER。そしてFukui Coffee Festivalを昨年実施しまして、来場者数1万2千人を集客しています。今年も11月に開催予定です。福井県最大級のイベントとなる予定です。今後の事業としては、福井県のクラフトビール醸造所のサポートをする予



定です。アウトドアとビール文化と合わせて、福井を表現していきたいと思っています。最後に、福井県アウトドア協会についてです。福井県をアウトドアで盛り上げようということで活動を行っています。約50社が関連していて、みんなが熱い思いをもって、アウトドアで福井を盛り上げようと活動しています。

[下川] 私もいつもTHE GATEを使っていますよ。品揃えがいいですね。

[平岡] ありがとうございます。会社のPRばかりで申し訳ありませんが、またお越しください。

ノーム自然環境教育事務所 坂本 均氏

ノーム自然環境教育事務所では自然と人、人と人を結ぶお手伝いをしています。六呂師高原の標高500mくらいの丘陵地帯の、周囲を牧場に囲まれた静かでのどかで動物の方が多い地域です。そこにハックルベリーの森という2haほどの平らな雑木林を見つけて使い始め、25年が経ちました。今は春夏秋冬を通して、県内のこども園の皆さんが、平日に森のようちえんとして利用されています。それから、小中学生や高校生の皆さんが時々団体のあそびや体験活動をしに来られます。自主事業として、地元の方々と一緒に音楽や俳句のイベントや、ソロキャンプなどの受け入れや、大きな木を使ってツリークライミングも実施しています。小さな森ですが、土の中の生き物や昆虫、爬虫類、鳥類など生き物が多く、大型から小型の哺乳類も利用する多様性に富んだ森です。夏は大野市の九頭竜川の支流の打波川で7月から8月に川遊びをしています。親子での体験や森のようちえんの体験の他、今年初めて保育園へ声をかけて、川遊び講座を事前に実施してお手伝いしていただくこともやってみま



クロストークの様子

した。それから、市内を流れる川の水質調査やガサガサ体験などもしています。春から秋にかけては九頭竜ダム湖でカヤックやSUP体験をしています。カヤックと化石採取を組み合わせた、ジオ・カヤックツアーも今年から始めて、湖岸は大体1億から3億年前か後の古生代から中生代の地層で、アンモナイトなども見つかっています。ダム湖に流れる川がありとても冷たいので、夏季シーズンはカヤックやSUPで遊びに行くツアーを子ども向けと大人向けに実施しています。お客様は大阪、岐阜、愛知の方が多いです。

大切にしていることは3つあり、1つ目は自然との関わりを通して人と人が一歩近づきお手伝いを大切にしていること。2つ目は地域や自然の歴史・文化・暮らしなど、体験を通して伝えていくこと。3つ目は安全で平等、そして楽しく学ぶことを背景としたエコツアーを提供していくこと。今後は多様な価値観の受け入れ、共同共生、そしていつまでもこの活動を続けていけるようにしていくことが、これからの私たちの課題になります。

[下川]私も普通のキャンプ場では物足りない感じなので、六呂師高原のフィールドをよく利用させてもらっています。

[坂本]ありがとうございます。

テーマ1
ネットで購入し動画サイトで学んで事故に遭う一般の方へ、私たちができることは？

参考事例1
8月21日、福岡県福津市で発生した、30代男性のSUP事故です。男性はSUPの上で釣りをしていたが、いったん海に入りSUPに乗る練習をしようとしたようです。乗り込む際にライフジャケットがSUPに引っかかり、自力で上がれなくなったので、118番



通報したようです。男性は、体力に自信がないとか、非力ということもなかったとのこと、日本シティSUP協会の君島さんは、「最初にきちんと講習を受けていたら、今回のような事故は起きていないと思います。SUPは風に弱い乗り物です。何かあれば、簡単に沖に流されてしまいます。今回の事故は1人でいったようですが、上級者でも1人では海に出ません。」とコメントされています。

参考事例2
9月30日、香川県沙弥島沖で発生した、40代男性のSUP事故です。男性がSUPに座って釣り針に餌をつけていたところ、波の影響でSUPが揺れ、海に転落したようです。男性が落水したとき、携帯電話も海に落ちてしまい誰にも連絡がとれず、クーラーボックスにつかまった状態で漂流し、約600メートル流された模様です。

[下川]このテーマを事前に聞いていて、Kazuさんと平岡さんがこのテーマにぴったりだと思いました。ネットで購入して、十分な練習をせずに水辺に行き事故を起こしている。Kazuさんどう思われますか？

[Kazu]嫌な買い物はしたくないから、初心者といえどもネットで購入時点に色々調べているはずだと思います。そういう時に必要な情報がさっと出てこないことが問題のように思います。私たち配信者は、一度は通る道ですが大炎上をかますことがあります。自動車業界だと、あおり運転がきっかけでドライブレコーダーが一気に普及しました。そう考えると水辺で

も大炎上というか、正しい知識を広める波があったときに、うまく乗って広めないといけないのかなと思います。

[下川]ありがとうございます。平岡さん、ネット販売はリスクなのでしょうか。

[平岡]この事故が、ネットで買ったかどうかわかりません。小売店で買った可能性もあります。ネット販売がだめとは僕は思いません。じゃあネット販売で何が出来るのかという話が出るのが建設的なので、そういう話をしていきたいです。

[下川]小売店でもネットでも、買うという行為は変わりませんね。違いがあるとすれば小売店には店員さんがいて、店員さんとコミュニケーションが発生する違いがありますね。そういう部分で意識されていることはありますか。

[平岡]私たちは実際、若狭店でSUPを販売しています。なぜ若狭店だけで販売しているかというと、SUPの安全性をきちんと説明出来るスタッフがいるところで売っているからです。ネット通販でもSUPを販売していますが、今回話を聞いて、安全性の説明をする必要があると感じました。販売するページにはしっかりと説明するなど、安全性を訴えることが大切だと思います。小売店も同じだと思いますが、業界全体として安全性を訴えていくような活動を進めることが必要だと感じました。

[下川]全体ということが大事ですね。THE GATEでラグを買おうとしたときに店員さんに、「何に使うのですか？」と聞かれました。「子どもと焚火の時に使います。」と答えたらダメだと怒られました。買う意図を聞いて、それが適しているかどうか、その人のスキルに合っているかどうかを、きちんとユーザー側に伝えられる店員さ

ん側の知識やスキルが無いといけませんね。それがアウトドア業界の常識になっていくことの入り口かもしれないですね。Kazuさんどう思われますか？

[Kazu]ネットはすごく便利なもので、夏になったら川や海のものがよく表示されるようになってるので、やはりそういったときに分かりやすい動画がまだまだ少ないというのも問題点としてあると思います。危険性を訴える動画は再生数が上がったりするので、全体的にSUPに乗る人も乗らない人も動画を見て、周りに教え合えるのではないかと思います。

[下川]平岡さんもKazuさんも広めるという点ではびったりの人たちだと思うのですが、全体で行うには、仕組みが重要なかなと思います。仕組みについてもっとこうすればいいのではないかというビジョンや気をつけていることはありますか？

[平岡]私たちは福井県アウトドア協会というものを設立しています。新潟県でもアウトドア協会が出来ました。新潟県のウエストという会社と仲良くさせていただいて、福井県の私

たちの活動を見て、新潟県でもつくられました。そういった活動が広がって、日本アウトドア協会の小売りの業界を作ろうという話も出ています。その中で安全についても啓蒙活動が出来ますし、メーカーさんに対して何か安全性を訴えかけるCMを打ってほしいなどの提案も出来ます。民間として全体を通して出来ることは、そういうことだと思います。ここに行政の方々にも入っていただいて、より安全性を担保するような活動が出来るといいのではないかと思います。

[大内]実際に中古ネット販売で買ったものや、日本製ではない安いSUPを購入して乗っている方もいました。その人たちは動画などで安全対策も見ているようです。だけど、その動画の中に出ていない大切な事もあります。例えばロープレスキューで、ロープが絡まって使えない時があります。それはロープを束ねて片づけてしまうから。そういった細かなことまで説明している動画が無いと思います。

[下川]動画というのは検索してもいっぱいワードが出てきて、どれが実際に見ればいいのか、何が正しいのか分

かりにくいところがあります。ひょっとしたら、正解の動画があるのかもしれないが、ユーザーがたどり着けないのかもしれない。

[Kazu]そういうときのショート動画です。今の若者は短い動画を好みます。10~20秒で、なぜ失敗したのかを説明する動画を量産します。視聴されることで関連した動画がたくさん出てくるようになります。ショート動画は検索ではなく関連動画が出てくるようになるので、そういう動画をたくさん出すことが大切です。

[下川]平岡さんのような小売業界もそういう動画の作成を頑張る、RACもこれを見たら大丈夫という基本動画をKazuさんが言うように作るのがポイントですね。山田さんのような方に出てもらったり。

[山田]はい、すごく賛成です。私もRACの講習会に行かないと分からないことがいっぱいあったので、そういうことを一般の方々に知ってもらうためには、動画というのは必要だと思います。

[下川]大内さん、RACの動画さえ見ればOKという状態にするというのはどうでしょうか。

[大内]はい、すごくいいアイデアだと思います。

[Kazu]ショート動画を量産し、またロング動画を1本見れば丸わかりというようにしておくというのでもいいと思います。

テーマ2
プレジャーボートとカヤック等の共存によるトラブルを防ぐために、私たちができることは？

参考事例3
2021年9月5日、福井県高浜町の高浜和田ビーチより250m離れた海上で発生した、SUPツアーに漁船が衝突し、当時29歳の女性が亡くなった



パネラーの皆さん

SUP事故です。SUPツアー中に7人が写真撮影をしていたところに、全長約11m、約4tの漁船が衝突。女性1人がスクリューに巻き込まれ、その後死亡が確認されました。当日の海は穏やかで見通しも良く、漁船には船長1人が乗っていたが、気づいたときには人とぶつかっていた、との証言をしています。この件については、本年5月に運転していた84才の男性漁師に対して、「業務上過失致死罪」の判決が下されました。裁判官は判決理由で、前方が見えづらい状況で操縦していたことについて「進路上に人はいないと安易に考えて確認を怠った。基本的な注意義務に違反し、その過失の程度は重い」と非難しました。

[下川]小畑さんは、観光客の方々をお相手したり、扱っている人数も多いのではないかと思います。こういった危険性は実感されているのではないのでしょうか？

[小畑]私たちが活動している青木湖は、透明度を守るためにエンジン付きのボートは禁止されています。こういうトラブルはあまり無い状況ですが、個人的に思うことは、慣れてくるとルールがあってもここまでは行けるだろうと、どうしても視野が狭くなってしまいます。やはりルールは守らないといけなくて、自分の技術に対して過信しないことが事故を防ぐ一つだと思います。

[下川]ありがとうございます。坂本さんはこういう事例ありますか？

[坂本]私たちが以前使っていた場所では、バス釣りの大きなボートがきて、怖い思いを何度かしました。

[下川]こういうケースは、どちら側一方が悪いという問題ではないのでしょうか。

[坂本]基本的には陸上と一緒に、力の強いほうが、弱いほうに配慮するべきだと思います。そういう気持ちを持っ

ているかどうかで、大きな船に乗っていても、安全への対応が変わってくると思います。

[下川]小畑さんは完全にセパレートなので問題ないですかね。

[小畑]大体手漕ぎのボートですが、SUPとカヤックとか、湖の周りでは他団体や私有地の場所もあります。ガイドが付かないレンタル種目については、安全講習で行ってはいけない場所を伝えていますが、それだけだと聞き流してしまうので、例えば「あそこに行くのは怖いおじさん出てくるよ」などの印象に残るような言い方を交えた工夫をしています。

[下川]住吉さんはいろいろな活動をされていますが、今回のような本来は起こりえない事故が何かの影響で起きてしまっている事例について、どうやったら起こらないように出来ると思いますか？

[住吉]参考事例3の事故でいうと、SUPも事故を予見出来たと思います。登山協会では、登山者とトレイルランが同じフィールドを使う中で大きな摩擦が起きています。結局は倫理観の話になりますが、マナーという

か、お互いを思う気持ちが大切かなと思います。

[下川]マナーですか。マナーだけだと多分無くならないでしょうね。

[平岡]海は道路のような標識は無いし、場所が決まっています。自分も海でSUPをしますが、漁船が近づいてきて危ないという経験はあります。海も道路のように走れるところ、遊ぶところを区切れば解決するのではないかと思います。遊ぶ側からするとどんど遊ぶ場所が無くなっていく感じがします。漁師さんたちも仕事をしていて邪魔だと思うので、漁業組合とよく話をし、海でもルールを決めることは大切だと思います。そういったことで、遊び場が確立出来てルールが出来たらいいと思います。

[下川]人がマナーのような、努力をするというのを信用していなくて、平岡さんのように、システムティックに考えないとダメだろうと思っています。

[住吉]国定公園内ではテント泊が禁止とかのルールがありますが、アウトドアをする人達のマナーが良いからこそ守られている部分というのがあります。ルールになってしまうと、産



熱心に聞き入る会場の皆さん



事例の紹介

業としてなり立っている私たちが規制で苦しくなると思います。

[坂本]私たちが現在利用している場所は、以前はバス釣り、カヤック、水遊び、SUPそして水上バイクなど、思い思いに利用している、ある意味無法地帯でした。3年ほど前より、バス釣りボートの入水制限、全ての湖面利用者へのライフジャケットの着用義務、規制範囲内での速度規制など、利用事業者でルールを作り運営を始めたこともあり、現在は比較のお互いを意識して邪魔しないように利用しています。

[下川]10人いてそのうち9人はルールを守っている。1人が守らない。その1人はなんなのか。この事故はおそらくその1人なのかも知れません。大半は常識になって、ルールを考えて守ってくれる。その守れないたった一人の人に対してどうするのが良いでしょうか。

[住吉]その一人が事故を起こしてしまうことによって、そのエリアは立ち入り禁止とかを行政的に決められてしまいます。

[下川]そうなるやっばり平岡さんが言うようなルールにしていく必要があるのでしょうか。

[坂本]大事なのは、現場にいる方が注意をすることでしょう。事故が起こってから、「危ないと思ってた」ではどうかと思います。この前も小さなボートに2人で乗り込み、手にはアルコールを持っていたので注意したら聞いてくれました。

[下川]やっぱり注意すれば聞いてくれるのですか。

[二瓶]福島県では3年前に、猪苗代湖でライフジャケットを着て浮かんでいた子どもとお母さんがプレジャーボートに轢かれ、子どもが死亡、お母さんが両脚を切断するという事故がありました。坂本さんが言われたように、ボートに乗る人に誓約書を書いて

もらうのも必要なのではないかと思います。

テーマ3

ライフジャケットを着用せずに水難事故にあう一般の子どもたちへ、私たちができることは？

参考事例4

7月21日、福岡県宮若市で小学校6年生の女子児童3人が死亡した水難事故です。校長先生が、「児童たちは、今日から夏休みで『川に行こう』となり8人で近くの川に向かった。最初は浅いところで遊んでいたものの、4人が川の深みにはまってしまった。1人は近くにいた友達がなんとか引き上げたが、3人はそのまま流されてしまった。3人の姿が見えなくなったところで、1人が携帯電話で110番した」と当時の状況を説明しました。消防隊が急行し、約30分後に水深2.5mから3mの川に沈んでいた2人を発見し救出。残る1人も7分後に川底から救出しました。3人はいずれも小学6年の女子児童で、近隣の病院に運ばれたものの死亡が確認されました。現場は河川改修工事が終わり、水辺に近づきやすくなり、時々人が訪れていたとのことでした。その後の対応としては、

- ・ 「宮若市水難事故防止協議会」が新たに設立
 - ・ 事故の危険性がある場所に立て看板を設置することや危険箇所を示すマップに川で遊ぶ際の注意事項などを盛り込んだ事故防止の冊子を作成し、学校などを通して子どもたちに改めて水の事故への注意を呼びかけることを決定
 - ・ 福岡県教育委員会は、県内の小中学校の体育教師などを対象に、「着衣水泳」の研修を来年度から始めることを決定
- ということです。

[下川]今年は非常に水難事故が多く、中でも子どもの事故が多かったという話がありました。二瓶さんのように、子どもたちに指導されている方々がいるにもかかわらず、なぜこういう事故が無くならないと思いますか？

[二瓶]私は実は元教員です。10年ほど前に福島県で夏休みの直前に小学生が川で亡くなるという事故がありました。お父さんが見ている前で、川に吸い込まれたそうです。福島県教育委員会はすぐに県内の全ての学校の校長に「終業式で、子どもたちに『川で遊んではいけない』という話をしなさい」という通達を出しました。教育委員会から言われた以上、話をしないわけにはいきません。しかし「川遊びをしよう」と言っている私が「川に行くな」などという話はできません。悩んだ末に「川に行くときは、責任ある大人と一緒にいくこと、ライフジャケットを必ず着ること」を話した上で、「川は楽しいけれども危険でもある。何よりも安全第一だ」ということを話しました。今回の事例で、福岡県の教育委員会が「先生を対象に着衣水泳の研修を始めることを決定した」ということはとても大事なことです。本当は全国の子どもたちを守るためには、各県に任せるとはならず、文部科学省が「学校の年間教育計画に着衣水泳を必ず入れること」と通達することが必要だと思います。

[下川]子どもたちにライフジャケットを着なさいと先生や大人は言いますが、子どもたちは着るのが面倒で、そもそも持っていないかもしれません。これって着るものなののでしょうか？

[小畑]着るものだと思って欲しいです。私も姪っ子にプレゼントしたけど、おばあちゃん家に行って浅い川で遊んでいるときに、せっかく買ったのに着けていませんでした。なので、も



熱心にメモをとる

う一度言いました。ライフジャケットは荷物になったり、苦しくて嫌がったりすることがあります。ダサイと感じるような雰囲気もあります。着けているほうが格好いいという雰囲気になるといいなと思います。

[下川]私はもうこういう事故は減らないと思っています。人が水から遠くなった時期がありました。40代の親御さんは水に入るなと育てられて、経験が無いでしょう。

[大内]イベントで幼稚園児が川流れをした時の審査員の方が、ライフジャケットを着けると子どもの危機察知能力が損なわれると言っていました。未だにそういうことを言われる方がいます。北海道の河川事務所では、小学校の川遊び用にライフジャケットを貸し出しをしています。最近、SUPでまちおこしをしようとしている団体で、無料で大人と子どものライフジャケットを貸し出すようなことをしています。盗難の問題もありましたが、無償でライフジャケットを借りられることも必要だと思います。

[下川]今のご発言はシステムの話ですね。要するにルールなのか、システムなのか。

[平岡]今話を聞いて、その動きがいいと思いました。夏休みに自分の娘が通う小学校で、環境文化研究所の田中さんと一緒にプールでSUPの授業を開きました。実際、自分たちでも指導は出来ますが、安全講習がしっかり出来る人にやってもらいたいという思いがありました。学校側から講師側にお金が支払われて、児童も楽しく学ぶというのが、安全活動につながっています。システムと楽しさを交えた安全講習が必要だと思います。

[下川]このままシステム化にしても、ライフジャケットを着ないのではとしましたが、楽しくて着たほうが格好いいのであれば、着用へと向かうの

ではないかと思いました。

[住吉]そうですね。ライフジャケットを着たほうが安全で格好いいという流れも分かります。でも、私が少年だったら絶対に着ないでしょう。エキサイティングを選んでいると思います。ここまで行ったらどうなるのかという気持ちが生まれる間は、無くならないのではないかなと思います。まずは着衣水泳などで怖い体験をして、その後ライフジャケットを着ようという流れがいいと思います。

[坂本]私たちの活動でも親子の川遊びをしますが、その時に必ずびつたりライフジャケットを選んでくださいと伝えていきます。遊びの中で、子どもたちがその効果を理解します。子どもだけでなく親御さんにもアプローチするのが大事だと思います。

[下川]今の話だと、どううまく伝えるのかということかなと思いますが、Kazuさんいかがでしょうか。

[Kazu]楽しく子どもたちが学ぶというのは賛成ですが、やはり子どもたちは負の感情のほうが強いと思います。苦しい思いをすとか。運転マナーに共通しますが、無理な追い越しとか横断歩道で止まらないというのは、いつネットで晒されてもおかしくない世の中です。行動の他に社会的な危険性があるという理解が必要です。なので、痛い目に遭うのも大事なかなと思います。

テーマ4

ライジャケがシートベルトのような一般常識になるために、私たちができることは？

参考事例5

8月7日、滋賀県大津市の琵琶湖で小学校4年生の男児が溺れて死亡した水難事故です。男児は所属する大阪府内のサッカークラブ20数人とコーチ2人で琵琶湖を訪れ遊泳していま

した。団体は、アクティビティに参加していましたが、この時はライフジャケットを装着していたそうです。体験が終了した後の午前11時頃、昼の休憩に入り、10人ほどの仲間と共に泳ぎに出かけていたという男児。2人のコーチは、行ったり来たりしながら、二手に分かれて見ていたようです。男児はこの時、ライフジャケットを着用していなかったとのこと。

海では現在、小型船舶やプレジャーボートなど全ての乗船者にライフジャケットの着用が義務化されています。海中転落時の生存率が2倍以上と言われていますが、海中転落者のライフジャケット着用率は顕著な上昇とは言えません。常識化となるにはもう一歩といった感じです。

[下川]普通、私のような立場だと前向きな発言をするところだと思うのですが、シートベルトのようにはならないだろうと思っているので、単刀直入に伺おうと思います。シートベルトのようにライフジャケットを着けてもらえるようになるのでしょうか？

[大内]結局シートベルトを着けないと、ケガの度合いが酷くなるというのがマスコミを含めて周知しています。タバコも健康被害をすごく刷り込まれるような周知をしています。また、静岡県で、ライフジャケット装着検定というのを日本で初めて実施されています。RACだけじゃなくて、他の団体でもライフジャケットを着けたほうがいいという動きがあります。ライフジャケットに関することは他の団体と一緒にもっとやっていくことが必要だと思います。

[下川]シートベルトのようにライフジャケットが当たり前になる時代が来ると思いますか？

[住吉]車はシートベルトを着けなかったら音が鳴ってうるさいですよ。あれが川や海にも導入されたら変わ

ると思いますし、ラフトガイドさんが着けているスタイリッシュで機能的なものが格好いいという時代が来れば変わると思います。

[大内]知らない人から見ると、僕の7万のライフジャケットも安いオレンジのライフジャケットも差が分からないのではと思います。それが格好いいと認識されるまで、どれくらいの期間がかかるのかなと思います。

[二瓶]「着けようね」と言うだけでは変わらないと思います。マスコミによる定期的な発信や、子どもたちが学校でライフジャケットの効果を体験的に知ることが大事だと思います。私たちは、「浮いて待て」だけでなく、「イカ泳ぎ」をしたり、子どもたちみんなで流れるプールを作って「流れ方」を学ぶことができるように支援しています。こういったことが文部科学省から通達されることが必要なのだと思います。



ステージの様子

[小畑]私は、ライフジャケットが当たり前のように着用される時代が来るとか、来させたいなと思っています。私はアウトドア業界に入ってからそれほど長くはないですが、若い世代や中堅世代は出来ないと言いたくないです。その時代が来ることを信じています。

[下川]平岡さん、質問が変わりますが、商品で何とかならないでしょうか。制服がライフジャケットとか、ランドセルがライフジャケットとか。買わないと仕方がないものがライフジ

ャケットになっているとか。

[平岡]可能だとは思いますが。海用のシェルをライフジャケットにするとか。シェルにはシェルの役割があるので、難しいと思いますが、そういう時代が来るか来ないかは、結論から言うと来ないと思います。すぐそこに駐車するのにシートベルトをするのか？という話だと思います。海難事故もすぐそこで、「まあいいか」というときに起きるケースもあると思います。事件や事故を一件ずつ検証していく必要があるかも知れません。私たちがやらねばならないことは、しっかりと啓蒙することでしょう。業界全体で取り組むということが大事です。着ることを願ってみんなで頑張ることが必要だと思います。

[下川]坂本さん、無理なんじゃないかという話になっていますが、どう思われますか？

[坂本]みんながみんな川遊びをするわけではありませんが、例えばお母さんが赤ちゃんに読み聞かせをするブックスタートというのがあります。絵本のある人生を歩んで欲しいと、絵本をプレゼントする事業です。ライフジャケットもライジャケスタートみたいな感じで、3~4歳くらいの時に、ライフジャケットを選んでもらい、年齢とともに新しいものを身につける。小さくなったもので使えるものは、次の子たちへ譲っていくのは面白いかなと思います。消耗品であるとか、お金の事もあると思いますが、ライジャケスタートってあってもいいのではと思います。

[下川]面白いですね。結局そういうのを誰がやるのか？いつもそういう話になります。

[二瓶]RACと文部科学省はつながっていると思っています。

[Kazu]僕は出来ると思います。シートベルトと同じ確率なら出来るはず



テレビの取材を受ける

です。例えば、プレジャーボートなら、ドローン飛ばして全員がライフジャケットを着用していなかったら、数万円の罰金を取る。それで監視の人たちの給料も出るなど。お金と、誰かに見られているという環境が必要で、それが出来たら簡単なのかも知れません。[下川]ありがとうございます。人数がいればいるほど意見が出ますね。ですが、可能性が無いわけではなく、新しい時代が来ているなと感じました。今日の話に出ませんでしたが、溺れている子がいたら救う技術なんかもあるのかなと思いますね。

フロアからのご意見

私がいるところでは内水面の湖があり、ボートも盛んに動いています。バス釣りもしていて、亡くなっている方も出ています。それでも誰もライフジャケットを着けません。親子で釣りをしているも着けていません。痛い目に合わないかわからないのでしょうか。ライフジャケットを着ていなかったら9割亡くなる、ライフジャケットを着ていたら9割は助かる。そういうことを釣り具などでも啓蒙するのが必要だと思います。

[司会]これにてクロストークを終了いたします。今回の課題解決が皆様の地域での水難事故防止のヒントになっていくこと、そして、一般の方とRAC指導者の皆さんがさらに繋がり深めていけることを願い、劇場型事例発表とクロストーク「川の体験」ノウハウ大百科～安全に体験できるために、私たちがやることは～を終了したいと思います。

改めまして、下川コーディネーター、パネラーの皆様、そして会場の皆様、長時間に渡りありがとうございます。

(以上)

閉会式

■ 大会のまとめ

総括：NPO法人小貝川プロジェクト21 副理事長, RAC企画総務部会長 齋藤 隆氏
記録：谷美沙希

今日のまとめの前に、19年前にこの地で第4回の全国大会を開催したところからふりかえりたいと思います。その時は田中謙次さんとお父様の田中保土さんが中心になって取り組まれていました。その時は、日野川流域をまるごと体験する企画でした。そして今回、再び福井で全国大会を開催出来たこと、実行委員の皆様には大変ありがとうございました。さらに、今回司会を務める田中彩愛さんが、田中謙次さんの娘さんであり、親子3代が川を通じてこの福井で全国大会に携わられているということも一つの活動のいい成果だと思っています。

本日、午前中はサイトツアーでした。一つはシカノバという九頭竜川のカヌー体験場、もう一つはナミノバという流れが速いところでフリースタイルカヤックの練習場でした。この2つの事業、画期的だと思っています。

す。河川内でのレクリエーション施設を国土交通省と福井県と永平寺町が税金を使って整備していることが、すごいことでもあります。昨年の全国大会では、河川法に環境が配慮され、治水利水の他にレクリエーションを含めた親水や環境的な活動ができました。今回の現場で一つ大きな繋がりがやと見ることが出来たことが、非常に感慨深いと思います。ナミノバの場所を思いついたのが、今日ご参加いただいている松永選手。そこから会社の社長に伝わり、SNSを伝って河川事務所の所長が反応し、田中さんに繋がって実際に出来たということです。そういった繋がりが、現場の活動を広げるといって今回の事例を踏まえても、SNSの力はすごいと思います。また、基調講演に来ていただいたKazuさん、別のチャンネルで草刈りをしているところを見ていて、いつも癒されています。

す。非常に力のあるユーザーで、Kazuさんからもクロストークで具体的な提案をしていただきました。今回約120名の方々が参加されているので、もしインフルエンサーになることを目指してショート動画を載せていくことになれば、大きな突破口となって大きなウェーブになるのかなと思っています。ぜひ今回の成果を地域に持ち帰って、さらに発展させていければと思っています。ありがとうございました。



まとめを述べる齋藤RAC企画総務部会長

■ 大会宣言

発表：実行委員長 坂本 均氏

～共につくる、安全で豊かな「川の未来」～

私たちは、全ての世代が川を身近に感じ、安心して楽しむことが出来る社会を築くため、川での活動の指導者育成に尽力してまいりました。現在、子どもたちの水難事故の約60%が川や湖で発生しています。これは、私たち一人ひとりが、守るべき大切な命のために行動を起こさねばならない緊急の危機を示しています。

私たちは、このような現在の危機と真摯に向き合い、安全で楽しい川での体験活動を推進するべく以下の誓いを新たにします。

1. 私たちは、川でのあらゆる活動時の安全を第一に考え、ライフジャケット着用の重要性を体験活動やインターネット等を通じて広め、一人でも多くの命が守られるよう尽力します。
2. 私たちは、川の安全対策や体験活動の信頼できるパートナーとして、地域社会と協力していきます。
3. 私たちは、様々な機会や場を通して、川の歴史や文化に焦点を当て、これからも川を愛する文化を育んでいけるよう地域社会へ働きかけていきます。

以上、3つの誓いと併せて、水辺の体験活動を通し、多くの方々が河川環境に配慮すると共に、互いに相手を思いやり、行動することで、美しい川と豊かな自然、無限の未来を守る力となることを信じてこれを大会宣言とします。

令和5年10月21日

第22回「川に学ぶ体験活動」全国大会in越前若狭
実行委員長 坂本 均



今回の全国大会で初めて発表した「大会宣言」

閉会式

■ 次回開催地の発表／フラッグリレー

次回開催地：第23回川に学ぶ体験活動全国大会in信濃大町 副実行委員長、白馬国際自然学校代表 和田信治氏
記録：谷美沙希

次回、大町市で行うRAC全国大会の副実行委員長の和田です。北アルプスの元、大町市は、黒部アルペンルートそして黒部ダム玄関口でありますし、白馬は素晴らしい観光地でございます。ちょうどこの時期、大町市では国際芸術祭も開催されています。ぜひみなさん、全国大会だけでなく、周りの観光も楽しんでいただければありがたいです。そしてまた隣接する松本空港までは、札幌から約1時間30分、福岡から約1時間30分、関西の神戸空港からも約1時間と、非常にアクセスがいいところがございますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。よろしくお願いいたします。



次回の開催地である長野県大町市へ、無事にRAC旗が手渡された

■ 閉会の挨拶

発表：実行委員長 坂本 均氏
記録：谷美沙希

皆様、お疲れ様でした。今朝からここまで話し合いの場と今後につながるような良い時間を過ごされたかと思います。この場をつくっていただいた運営委員の皆様ありがとうございました。明日はエクスカッションがあります。明日、元気な顔を見られたらと思います。ありがとうございました。



■ 交流会

ご挨拶：近畿地方整備局福井河川国道事務所 事務所長 橋本 亮氏
 乾杯：RAC理事、東京海洋大学海事システム工学部門准教授 田村祐司氏
 参加者：78名 司会：田中彩愛、谷美沙希、田中謙次

交流会は大会と同じ会場で開催し、福井の郷土料理を中心にお食事をご用意いたしました。開催にあたり、全国各地からたくさんのお土産を頂戴し、また、大抽選会では、THE GATE様、クリアウォーターカヤックス様からは多くの景品をご提供いただきました。誠にありがとうございました。



たくさんのお土産と笑顔を
 ありがとうございました！



■ Aコース:まちなか足羽川パドリング川下り

主催：一般社団法人環境文化研究所、まちづくり福井株式会社
 場所：足羽川板垣橋右岸一九十九橋左岸(福井市)
 参加数：25名 時間：8:30-11:30
 記録：カワラバン 菅原正徳氏

前日までにまとまった雨が降り、渾水だった流れが川下りにちょうど良い水位になっていました。上流部の山は白く冠雪していて、川に入ると冷たい水に晩秋を感じました。

今回はEポート、ラフトポート、カヤック、SUP、バックラフトで板垣橋から十九橋までをゆったりと2時間をかけて下ります。タンデムカヤックに初挑戦の親子やSUP初挑戦の参加者もあり、十分に時間をかけてセーフティトークを行った後、ライフジャケットを着用してそれぞれのポートに乗り込み出発です。

増水で勢いを増した流れは浅瀬を気にすることなくどんどんポートを押し流してくれます。SUPチームは瀬を座ってやり過ごしてから、ゆっくりとした流れで立つ練習をしながら。カヤックチームは初挑戦の親子をガイド艇がマンツーマンでサポート。先頭を地元メンバーのラフト艇、最後尾をEポートで進みます。

産卵期を迎える落ちアユを狙いスズキも川に遡上しており、スタート地点ではアングラが70cm近い魚を我々の目の前で釣っていたり、上空を旋回していたトビがEポートのすぐ

そばの水面に急降下して弱ったアユを見事にキャッチしていたりと、生き物たちの賑わいも感じられました。川沿いには桜並木が延々と続き、春に川を下ったらどれだけ見事な景色だろうと想像が膨らみます。環境文化研究所では花筏とともに川下りをする企画もあるそうなので、もう一度桜の時期に下ってみたいものです。短い区間でいくつもの橋をくぐり、ここがタイトル通りのまちなかであることを実感しますが、よどみのない流れと自然度の高さ、そして多様な川のアクティビティを実践する団体があることで、初めて来た福井のまちのファンになりました。

参加者の感想

- 初めて川に浮かびました。いつもと視点が違い、そしてのんびりと漕ぐことが出来てとても気持ちよかったです。今度は家族と一緒に川遊びをしたいです。
- 静水でのカヤック体験はしたことがありましたが流れの中では初めてで、操作が難しく、曲がってしまうと元に戻すのが大変でした。とても楽しかったです。

- SUPに初めて乗りましたが、楽しくて海まで行ってみたいくなりました。
- 流れが早くて漕がないでも進んだのでとても楽しかったです。
- Eポートに乗りましたが、カーブで流れに吸い込まれる感じを実感出来ました。鳥も間近に見られて楽しかったです。
- 街の中に素晴らしい川があり、皆に大事にされている感じがしました。
- 初めてのSUPだったのでひっくり返ると思っていたのですが大丈夫でした。SUPが欲しくなりました。
- バックラフトに乗りましたが、思わぬところで沈してしまい、ライフジャケットの必要性を再確認することが出来ました。



■ Bコース:フリースタイルカヤック観戦とチャレンジ

主催：九頭竜川かわとまち協議会、九頭竜川パドリングセンター
 場所：九頭竜川 ナミノバ(永平寺町中島河川公園内)
 参加数：4名+永平寺町役場職員2名 時間：9:30-12:00
 記録：NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク 山田大志氏

参加者4名は前日の交流会で親しくなったこともあり、和気あいあいとした雰囲気の中で福井駅を出発しました。30分ほどで今回の目的地「ナミノバ」に到着。本日のガイドの松永和也さんが出迎えてくれました。松永さんは数日前までアメリカのフリースタイルカヤック世界大会に出場しており、今回は帰国直後でハードスケジュールの中ご対応していただきました。参加者は松永さんのカーボン製のとても軽いカヤックに興味津々でした。早速、「ナミノバ」についてご説明頂きました。

ナミノバの放水口を見てウェーブを立てたいと考えたのがナミノバ、シカノバ整備のきっかけです。勤める会社の社長が福井河川国道事務所事務所長に相談してくれ、どんどん広がっていき、漁協、企業、福井工業大学の下川先生、田中謙次さんなど、みんなを巻き込めたのが良かったと思います。ナミノバは、九頭竜川中部漁業協同組合と勝山市漁業協同組合との境界にあたり、吉峰川にサクラマスを遡上させたいと活動されている方もいて、その調整が一番難しかったです。今は見ることは出来ませんが、水路の切れ目に1mの落差工があり、そこから10m下流に3tのブロックが14個入っています。ブロックは共和コンクリートさんが支援して下さいました。

工事期間はダムのメンテナンス期間である12月の3日間で、地元の永平寺町に対して強い思いのある土木会社さんが頑張ってくれました。雪が降

る極寒の中、一緒に夜中の2時30分まで作業しました。落差工で波が起きればいいというのが第一案、入れたブロックで波が立っていいというのが第二案、奥の肩が上がって手前に波が出来るといいというのが第三案、一発勝負だったので何がどうなるかわからないので保険をかけて工事をしました。クラウドファンディングや企業協賛による日本初の民間資金の工事でした。

今後の課題としては、常時波が立つ場所にしていきたいです。毎年春に大会をしていますが、将来的に日本選手権や世界選手権を誘致したいです。また、下流の公園の横に水路を作ってコースを作りたいと考えています。ここは水量もあり、常時カヤックが出来るポテンシャルがあります。下流にあるシカノバの静水域が初心者用で、コースが出来ればステップアップ出来て、海外を目指せる人材育成の場にした、というのが最終的な目標です。

タイル張りの護岸は、河川改修として工事し、なんと、丁度腰掛けれる高さでカヤックを観戦出来ます。高水敷の舗装は永平寺町が施工してくれました。元々公園なのでトイレもあるし、中々こんな立地はありません。福井市内からの距離も程よく、大会では音楽もかけるので騒音の問題も少ないです。レスキュー3の講習は海外では車を沈めたりします。日本にはないのでこの場所が今後レスキュー講習の場所になったら嬉しいです。待ちに待った松永さんのデモン

トレーションが始まりました。水量も少なくあまり良くないコンディションでしたが、流石の世界トップクラス。カートホイールに始まり、ループなど様々な技が繰り広げられます。参加者からは歓声と拍手喝采。世界の美技に圧倒された幸せな時間でした。

参加者の感想

- 一本の川でナミノバやシカノバなどの多様な川の遊び方が出来るポテンシャルがあり、色々な課題はあるようですが、それを様々な方々と連携をして作り上げていっていることが凄いと感じました。
- プロの選手がいて、町全体で盛り上げていこうという機運や、みんなで楽しみながら作り上げて行っている様子が伺え、素敵だと思いました。まだ全体が完成されていないので、また数年後に訪れたい場所でした。



■ Cコース:九頭竜ダム湖ジオツアー

主催：ノーム自然環境教育事務所
 場所：九頭竜川ダム(大野市下半原)
 参加数：5名 時間：8:30-14:30
 記録：NPO法人みずのとらベル隊、Go Nature 田中清也氏

Cコースは、Eポートで湖岸にある化石発掘ポイントにアクセスし発掘体験を行うという内容です。

集合は福井駅、そこからバスで1時間半ほどかけて九頭竜ダム湖ほとりにある九頭竜レイクサイドモビレイジに到着しました。ここは九頭竜ダム湖の最上流部付近に位置し、キャンプ場とともに湖への坂路も整備されており、一般の方も水面利用出来るフィールドです。それゆえにツアーを始めた当初は、エンジン付きバスポートとカヤック・Eポートとの住み分けが出来ておらず安全に不安を感じる場面もあったのですが、現在はカヤック・Eポートエリアではバスポートはエレキを使用するなどルールも出来て、安全にツアーが出来ているとのことでした。

今回インストラクターとは現地でご合流しました。Eポート担当が坂本実行委員長と他1名、化石発掘担当で専門家の川田信行さんが担当されました。湖到着後は参加者みんなで手際よくライフジャケットを装着し乗降ポイントへ向かったのですが、まずそこでインストラクターの川田さんから

「ここに化石が見えていますよ！」との一言。実際に転がっている石の中にシダ植物の化石を目の当たりにして、参加者全員の期待とやる気は一気に急上昇していきました。出艇してしばらく湖上でいくつも返ってくるヤマビコを楽しんだり、湖の環境の話や聞いたりしながら化石発掘ポイントに向かいました。上陸後はゴグル、グローブ、ハンマーを受け取り、川田さんより発掘方法のレクチャーを受けました。この辺りは九頭竜層と呼ばれ、日本が未だ大陸の東側にあった大昔は海だったそうで、川から流れてきて堆積した植物の化石がよく出ると、まれにアンモナイトも出るとです。黒い石が頁岩(ケツガン)といい化石が入っている石だそうで、参加者は頁岩を探してはハンマーで割り化石を探すと作業に没頭しました。川田さんのアドバイスを受けながら、しばらくすると植物の茎の化石や葉の化石が見つかり始めました。発掘作業は皆熱中し、あっという間に終了の時間を迎え、再度Eポートに乗船し約1時間半のツアーは終了となりました。最終的に5名中3名が化石を見

つけることが出来ました。

今回のツアーでは、化石の専門家がEポートに同乗し化石のロマンあふれる話と発掘に対して的確なアドバイスをしていただいたことで、ツアーの魅力が何倍にも増していました。RACと様々な分野の専門家がコラボレーションする可能性の広がりを感じるプログラムでした。

参加者の感想

- 茎の化石を発見出来て感激した。楽しかった。
- ここでしか出来ない貴重な体験が出来た。この体験はこの場所の宝物だと思った。
- Eポートで渡った先にこんなに楽しいことがあるとは思わなかった。楽しかった。
- まさか自分が化石発掘出来るとは思わなかった。これはまた来なければと思った。



■ Dコース:竹田の龍ヶ鼻ダムで冒険カヤック

主催：坂井市竹田農山村交流センターちくちくぼんぼん
 場所：龍ヶ鼻ダム(坂井市竹田)
 参加数：5名 時間：8:30-12:00
 記録：NPO法人小貝川プロジェクト21 齋藤 隆氏

福井駅から先ず向かったのは、坂井市の体験型宿泊施設「ちくちくぼんぼん」。かつて竹田の中学校・小学校だったところをリノベーションして、2016年7月にオープンした施設。今では、地域内外の方々により交流や研修、合宿などで利用され、廃校利用の先進事例として視察の方も訪れる素敵な処。その施設から車で5分のところに位置する龍ヶ鼻ダムで実施されているのが、当コースの「冒険ダムカヤック」プログラムでした。

施設に到着後、シャワー室完備の更衣室で着替えを済ませてから、1Fの体験ホールでプログラムが始まりました。コースの流れのレクチャーを受け、外のテラスで、漕ぎ方を教わります。ホールに準備されていたRAC認定ライフジャケットを身につけ、スタート地点までマイクロバスで移動(ダム湖畔へ降りる道にはゲートがあるので一般の人は入れませんが、福井県知事と福井県アウトドア協会との対談によって、ちくちくぼんぼんも活動期間中は鍵を保有することが可能になったことで、当該プログラムの実施が可能になったとこのことです)。

ダム堤体近くの乗り場から上流へ

向けて、いざスタート！澄み渡る秋晴れのもと、穏やかな湖面を漕ぎ上がっていきます。といっても流れはほぼ感じることはないです。途中では、陸橋の下にあるスズメバチの巣や、クマが登って実を食べるというクロサシウウ等について紹介をいただきながら、湖面のきらめきと心地よい微風を感じつつ、ダムが一番奥の流れ込みへ到着しました。今日は流入量が10tと普段よりも多く、水温も10秒で足がしびれてくるほど低かったのですが、カヤックから降りて水の中に入って楽しむ方もいました。

湖畔では食べ頃になっていたアケビやムカゴを試食。野性味溢れる里山の秋を味わいました。ペースへ戻った後には、温かい飲み物と地元の美味しいミルクプリンを堪能しました。体験後のふりかえりでは、インストラクターから、折角の全国大会という機会なので是非改善点等があればという提案を得て、下記のようなアイデア等もありました。

参加者の感想

- スプレースカートを着けていたので、はっきりした「休憩」の時間

- あったほうが有難い。
- 腕力で漕いで疲れ果ててしまう人もいるので、手漕ぎではなく、トルソーローテーションを教えるのも一つの方法。
- 沢に少し登るのであれば、ヘルメットは欲しい。
- 体験後のコーヒーとスイーツを湖畔で提供してはどうか？
- 参加者の体温管理で、暑いときには乗る前に水掛けしてしまうのかも一つの方法。

全体としては、「とっても楽しくゆったりと体験させて頂いた！」とか「漕ぎ方の指導もとても分かりやすかった」「体験後のミルクプリンもとてもおいしかった！」など、大好評でした。



■ Eコース:永平寺町での「禅と酒と食」を体験!

主催:禅ツーリスト(永平寺町観光物産協会) 案内:九頭竜川かわとまち協議会 佐野洋介氏
 場所:大本山永平寺及び黒龍酒造ESHIKOTO(永平寺町)
 参加数:14名 時間:8:30-14:00
 記録:公益財団法人ハーモニセンター 佐藤ともえ氏

福井駅東口に集合し、曹洞宗の総本山「永平寺」で座禅体験を行うため、総勢14名がバスで向かいました。車中では永平寺町観光物産協会の釜田さんのガイドと、Eコース担当の佐野さんの楽しいお話で楽しませていただきました。

永平寺の境内は前日の雨が上がり、清浄な空気に包まれていました。到着した一行は「心が洗われるようだ」と口にしながら永平寺の中を拝観しました。実際そこには修行のため永平寺に滞在する僧侶の姿も多くあり、観光地と修行の場を見事に両立させた場であることを体感しました。座禅の体験はただその場の雰囲気を楽しむだけでなく、曹洞宗のルールに則った荘厳な空気の中で行われました。

その後は昼食へ向かう前に「鳴鹿大堰」に立ち寄り、珍しい油圧式の水門を見学しました。参加者の中にはこの堰と縁のある方が多く、専門用語や思い出話が飛び交うひと時でした。

昼食の場は日本酒を製造販売する「黒龍酒造」が運営する「ESHIKOTO」に伺いました。「ESHIKOTO」とは「永(トコシエ)」のアナグラムであり、「エ

シコト(良い事)」と二重の意味をかけているそうです。

九頭竜川を眺める高台には、食事やショッピングが出来る「酒楽棟」と、日本酒を発酵・熟成させる建物「臥龍棟」が併設されており、美しい景観を醸し出しています。今回は通常では見学出来ない「臥龍棟」の内部を特別に拝見させて頂きました。建物の内部は福井産の木材や、現在は採掘が出来ない笏谷石を再利用した資材などで作られており、天井の高い建物はスパークリング日本酒の貯蔵庫とフリースペースになっており、黒龍酒造の創業と同じ年輪を持つ杉の巨木が空間を演出していました。

酒楽棟ではおいしいお食事と利き酒を楽しみました。大きな窓の外に広がる自然を眺めながら、美しく整えられた膳と美酒に酔いしれました。

参加者の感想

- 永平寺の朝の風景・空気がすがすがしさを、建物・文化が想像以上に素晴らしかった。
- 座禅の体験を経て、明日から頑張ろうという気になった。

- 永平寺の文化・思想、九頭竜川の水とおいしい食事とお酒、全てに満足した。



■ Fコース:縄文ロマンパークで悠久の時を感じよう!

主催:NPO法人森林楽校・森んこ
 場所:縄文ロマンパーク(福井県年縞博物館・若狭三方縄文博物館・福井県里山里海湖研究所)
 参加数:8名 時間:8:30-13:30
 記録:NPO法人国際自然大学校 佐藤繁一氏

福井駅からバスに乗って約1時間で縄文ロマンパークへ到着しました。車内では参加者の自己紹介とこのコースへの参加の動機などを共有しました。

最初に入ったのは「福井県立年縞博物館」。コース参加者の多くが「縞博(ねんこう)」という単語を初めて聞きました。施設の方案内で早速博物館内へ入ります。水月湖の底に積もったプランクトンや鉄分などが縞模様になった泥の地層が7万年分、45mのステンドグラスに封印されて目の前に現れます。

学術的な価値より前に、三方五湖の1つ、水月湖の湖底に7万年分の日本の地球の息吹が残されていたこと、1枚1枚の層にこれまで正確に分らなかった日本の気候や地震、火山の噴火などが記録されています。2~3歩進むと千年単位の歴史が記録されている現物を目の当たりに出来ることに感動します。

私自身が一番感動したのは7300年前に噴火した喜界カルデラの超巨大噴火の噴煙が年縞の中に封印されていたことです。鹿児島県屋久島などで縄文人たちの生活を壊滅させたと考え

られている巨大噴火の痕跡が福井県の水月湖に残されていたという事でした。

年縞に含まれる花粉の種類や量、火山灰などから当時の気候や降水量、火山活動が分かり、縄文遺跡などの出土物に対する放射性炭素年代測定の精度を引き上げたことは非常に価値の高いもので、まさに環境のタイムマシンがここにあるのだと、とても感心しました。

1950年代以降は、核兵器の開発による大気中の核汚染物の影響によって放射性炭素測定が出来なくなってしまったことも分かり、偉大な歴史のレコードを現代の人の手によって止めてしまったことについては残念に思いました。

続いて「若狭三方縄文博物館」では、地域のボランティアガイドの方が案内してくださいました。1万5千年ほど前の縄文文化の出土品など数多く展示されています。丸木舟や漆塗りの櫓など、鳥浜貝塚の貴重な遺物を見る事が出来ます。我々が想像しているよりも豊かな生活をしていた事が、数々の展示品やパネルから分かりました。年縞博物館が出来たことによって展

示品の使われていた時期の想定が80~100年程度修正されていることも表示されていて、技術の進歩によって歴史の見方が変化することも分かります。県立博物館と連携してよりリアルを追求出来る、年縞博物館と併設である価値が高まる予感がしました。コースの予定にあった、里山里海湖研究所は休日の為見学出来ませんでしたが、三方湖を眺めたりしつつ時間いっぱい福井県のポテンシャルを体感出来る1日になりました。

参加者の感想

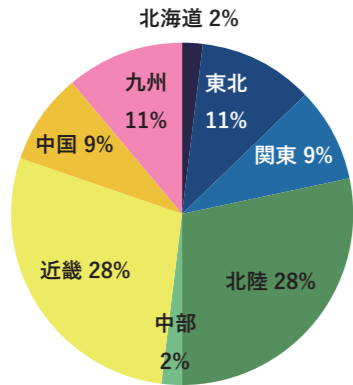
- 「年縞」という言葉も知らなかったの、時間が足りないくらい興味深く見学が出来た。
- 不思議な魅力がある博物館。学芸員の方の説明も興味引く丁寧な説明が聞けて大変勉強になった。価値ある時間を過ごした。
- 年縞博物館って何だろうと好奇心で行って見ました。世界一が水月湖にあったとは、みなさん一度訪れてもらいたいです。
- 時間が足らず。また来ます。



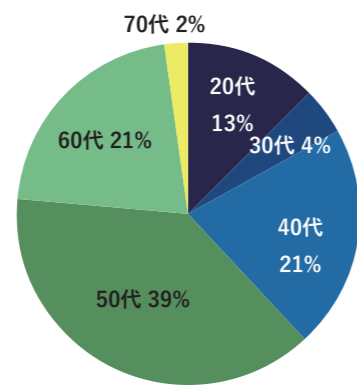
アンケート

■ 結果のまとめ n=47

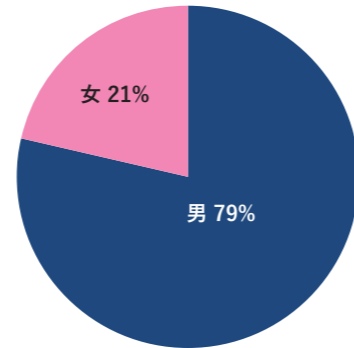
Q1 どちらからお越しになりましたか？(整備局分類)



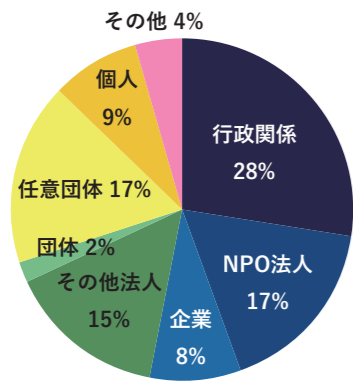
Q2 年齢を教えてください。



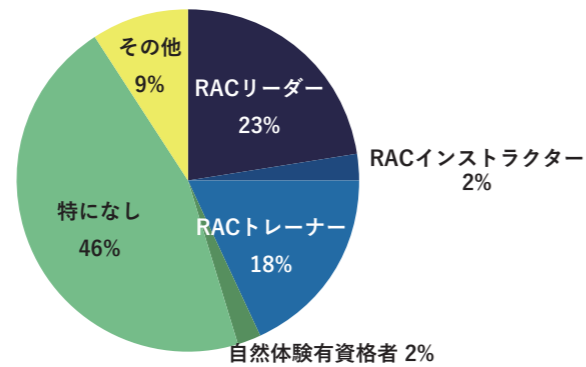
Q3 性別を教えてください。



Q4 所属を教えてください

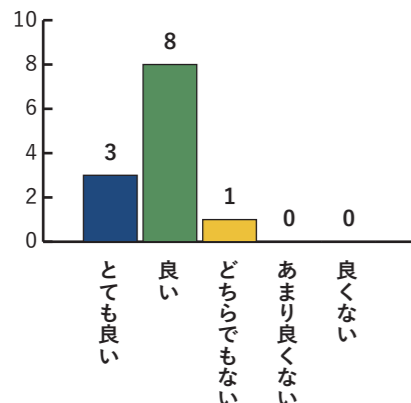


Q5 資格などを教えてください。

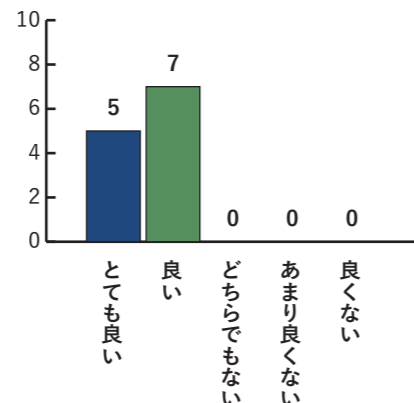


【サイトツアー】

Q6 サイトツアーの内容は充実していましたか？



Q7 サイトツアーのガイドの説明などはいかがでしたか？

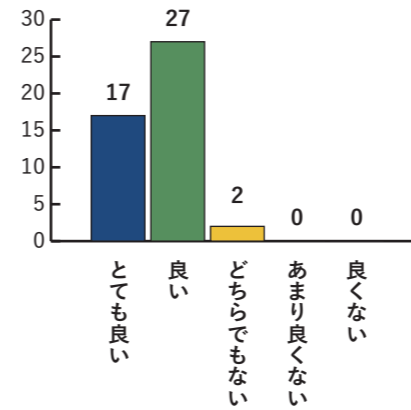


Q8 サイトツアーについてご意見をお書きください。

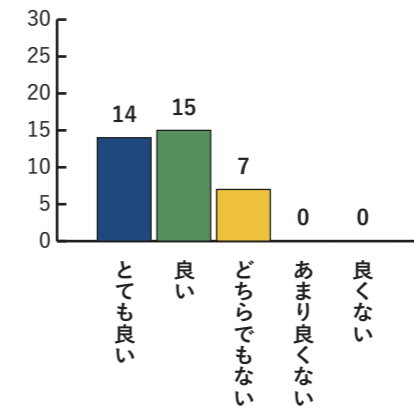
悪天候の中、スタッフの丁寧な案内は感謝されている。特に、九頭竜川かわとまち協議会の計画を見て素晴らしいと感じたり、解説が分かりやすかった点は評価が高い。しかし、雨による視界の悪さやアナウンスの聞き取りにくさ、時間が伸びたことで昼食時間が不足したことは改善が必要である。松永選手のアイデアから川を愛する人々の協力でプロジェクトが実現し、その過程を学べるのは有意義であった。ただし、もっと掘り下げた話や現場での解説があれば、さらに理解が深まったであろうと思われる。

【基調講演】

Q9 基調講演の講演者についていかがでしたか？



Q10 基調講演の内容について理解しやすかったですか？

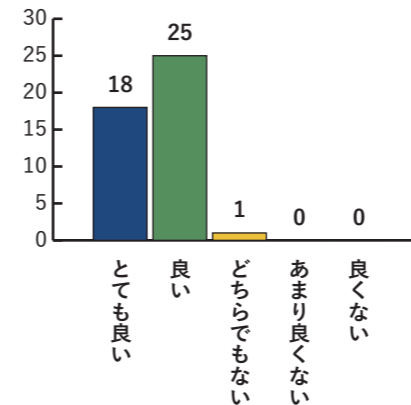


Q11 基調講演についてご意見をお書きください。

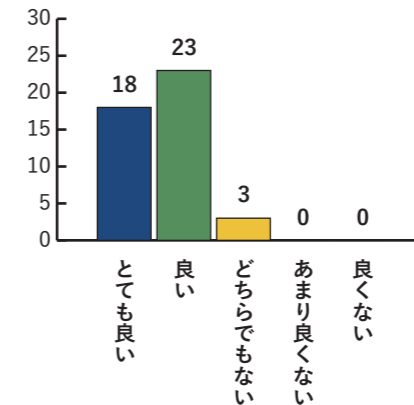
ガジェットとSNSを活用した情報発信の実践的なノウハウが参加者に理解された。多くが動画撮影への意欲を示し、アクションカメラの具体的な使い方に関心を持った。Kazu氏の話は特に印象的で、YouTubeを通じた情報伝達の可能性が示されたが、ガジェットへの関心がない参加者には内容が専門的すぎた。情報発信のための機材選びやデータの保存方法についても学ぶことが出来た。発信力強化はRACの必須要件と感じられた。全体として、新しい視点が提供され、多くにとっては有益なセッションであったが、参加者の興味によって多少の評価が分かれた。

【クロストークショー】

Q12 クロストークショーのテーマ分けは理解しやすかったですか？



Q13 コーディネーターの進行についてどう思いましたか？



Q14 クロストークショーについてご意見をお書きください。

多様な専門家の意見が参考になり、生のトークから得られる知見があった。しかし、議論の深掘りが不十分で結論が曖昧に感じられた。実践的な内容の紹介がもっとあれば、参加者が解決策を見出せる機会が増えたかもしれない。一方で、ユニークなクロストーク形式やコーディネーターは楽しい時間を提供し、笑いも交えたりリラックスした雰囲気が進んだ。多くの意見が飛び交い、多様な視点からの気づきが得られた。ただし、時間の制約で全ての意見を聞くことが出来なかったのは残念な点だ。今後はもっと時間を確保し、参加者一人一人の意見を尊重した形式が望まれる。

【大会全体】

Q15 大会全体を通じてご意見をお書きください。

大会は全体的に成功と評価され、特にクロストークや基調講演が新鮮な切り口で参加者に良い刺激を与えた。綺麗な会場とスムーズな運営に対しても感謝の声が多く、異なる経験を持つ人々との交流は貴重だった。しかし、参加型のディスカッションについての要望があり、より深い議論を望む声も挙がっている。大会を通じて、水難事故のような重要なテーマに焦点を当てることの必要性が認識された。次回の大会への期待も高く、継続的な改善と参加者の積極的な関与が望まれている。

水門・除塵設備等の河川機械設備の設計・施工



福井県福井市若栄町702番地 www.tecco.co.jp

魚の生態に学ぶ生きた川づくり

多くのフィールドと水理実験から得られたデータが
豊かな河川を取り戻します

棲流 (せいりゅう)



石材、間伐材を用い
多様な組み合わせが
可能な護床ブロック



ステップール



全越流・アイスハーバー
混合型魚道ブロック



瑞流 (すいりゅう)

(公財)リバーフロント研究所と共同開発



護床ブロックにアイス
ハーバー型魚道機能
を付加した構造



遊泳 (ゆうえい)



開水路とアイスハーバ
ー型や全越流型の隔壁
を組み合わせた構造



祝 全国大会開催 NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会 会員

 共和コンクリート工業株式会社

本社 〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目28 (札幌エルプラザ)

TEL 011-736-0181

東京本社 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-10-10 (いちご南大塚ビル)

TEL 03-6907-3721

北陸支店 〒939-0256 富山県射水市広上 1418

TEL 0766-52-0463



Tanaka Geological Corporation

地学のチカラ

私たちは「地学のチカラ」で
自然環境問題を解決する
ジオ・エンジニアです。

主な仕事の様子



雨や雪だと大変だけど
天気がいいとサイコー!



ため池を調べるのに地中レーダー
をなんと、SUPに乗せた!



土を調べるために使う試験器
具って、変わってて珍しい。



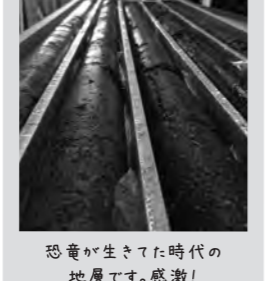
木造の会社って、過ごしやすい
くて、ちょー快適!



自然災害が発生しないか、
地道に計測しています。



土石流の跡をドローンで調査。
3Dで解析中...



恐竜が生きた時代の
地層です。感激!



お正月は全社員で書初め。
さて、今年の抱負は...?



株式会社 田中地質コンサルタント 〒915-0082 福井県越前市国高二丁目324番地7 TEL.(0778)25-7000 FAX(0778)25-7001



【企業情報】
株式会社カンパネラ
代表取締役 平岡和彦



所在地 〒919-0476
福井県坂井市春江町針原 20-29
TEL 0776-63-6418
FAX 0776-63-6417
設立 2009年6月
URL <https://campanela.jp/>



【THE GATE】
福井県福井市定正町 1216



【THE GATE SPORTING CLUB】
福井県福井市定正町 1304



【THE GATE WAKASA】
福井県大飯郡おおい町成海 1-8-5
SEE SEA PARK EAST 棟



【Park Coffee&Bagel】
福井県福井市定正町 810-1

CAMPANELA

第22回
川に学ぶ体験活動全国大会 in 越前若狭
開催おめでとうございます。



日本最大級の品揃えと展示数 株式会社クリアウォーター
カヌー専門店 TEL 043-497-3951
千葉県千葉市中央区川崎町 1-34

キャリア・ルート・プラス!

福井エリア 就職支援会社 お客様満足度 **第1位**
 福井エリア 友人に紹介したい 就職支援会社 **第1位**
 福井エリア 希望職種が見つかる 就職支援会社 **第1位**

株式会社 **キャリアプラス**
 総合就職支援企業 人材派遣 社員紹介 職業訓練
 地元福井の独立系総合就職支援企業です

グランディア **芳泉**
 GRANDIA HOUSEN

先進の技術開発で未来へ

MILCON 株式会社
 代表取締役社長 星田 典行
<https://www.milcon.co.jp>

本社住所 / 〒910-8560 福井市長本町202番地
 電話番号 / 0776-52-8007
 FAX番号 / 0776-52-8011

Service Ace
 Accelerate good purpose

コマツサービスエース株式会社

muRata
 INNOVATOR IN ELECTRONICS

福井村田製作所
 代表取締役社長 野村慎治
 福井県越前市岡本町13号1番地
 TEL (0778) 23-2111 (代)

RBB
 RIVALLEY BURNING BLOOD

アトリエ

つくっているのは開放感。

TOKO
 株式会社 TOKO

本社・工場 福井県鯖江市熊田町1-100

DAIDEN
 大電産業株式会社

所長 **南 誠太郎**
 MINAMI SEITARO
南 誠太郎税理士事務所
 〒918-8015 福井市花堂南2丁目5番26号
 TEL (0776) 36-0550 FAX (0776) 34-2955
 E-mail: s-minami@kame-minami.com
 URL: http://minami-kame.com

ちくちくぼんぼん
体験型宿泊施設 坂井市竹田農山村交流センター
 〒910-0203 福井県坂井市丸岡町山口60-8
 ☎0776-50-2393 📠0776-50-2395

個人協賛 **ご芳名** (敬称略)

池内 昭彦
 大谷 祐司郎
 竹下 悟史
 林 尚典
 増永 宗太郎

ご協賛いただき、誠にありがとうございました。

■ RACインフォメーション

RACの紹介

川に学ぶ体験活動協議会(River Activities Council 略称:RAC)は、川での体験活動を支援・推進するあらゆる活動を、時代に合わせて総合的に展開していくために、川をフィールドにして活動している各地のNPO法人・市民団体が参加し、2000年9月に設立され、2005年12月にNPO法人として登録した協議会です。

設立の背景

1997年には河川法が改正され、1998年6月、河川審議会「川に学ぶ小委員会」がまとめた『「川に学ぶ」社会をめざして』という答申が出されました。この答申では、「古来より、人は川の流れと共に暮らし、川を愛し、川から多くのことを学んできた。それは川が豊かな恵みをもたらし、交通・交易の場として人々の生活を支えてきただけでなく、人間の心性に関する文化を育んできたことの現れである。川とのつながりを取り戻し、川に学ぶ社会を創造すること。それはすなわち近代が生み出した地球規模の環境問題や私たちの心の危機を乗り越え、真に幸福な次期文明を探ることにつながる。なぜなら、川とは自然の生態系であると同時に、流域という共同体や生命のつながりそのものだからだ。川に学ぶ社会を創造するため、まずは、川の魅力とその本当の姿、川の作法を守ってきた先人の知恵を広く多くの人に伝えることが大切」と提言されています。

活動の目的

RACはNPO法人の定款において下記の通り活動目的を定義しています。地域の振興には健全な流域の発展が不可欠であるという認識に立ち、これを構成する流域の歴史・風土・自然・生活・文化等を通して、地球環境の根幹ともいえる水循環を担う「川」を理解する「川に学ぶ」という理念のもと、川及び水辺での継続的な体験活動とそれを支える「川の指導者」を育成する他、この活動の普遍化に向けて産学官民の連携のもと様々な分野や地域を越えた交流や支援を行い、同時に円滑な活動を推進するために必要な調査研究や普及啓発を図り、もって良好な河川・水環境の保全及び創出に寄与することを目的とする。上記定款の目的に賛同する全国各地の市民団体や各種組織や有志により、先に制定された川に学ぶ理念を柱として指導者養成や各種普及活動等を全国各地で展開しています。

第20回日本水大賞

RACはこれまでに、「川に学ぶ社会」を目指し、川の指導者プログラムを一から作り上げて、水循環の保全と人間性豊かな人を育てる活動を20年近く展開してきました。その取り組みが評価されて、2018年に日本水大賞委員会(名誉総裁:秋篠宮殿下)により、応募総数143件の中から「大賞」に選ばれ、表彰されました。

全国大会(川に学ぶ全国交流会・川に学ぶ体験活動全国大会)の開催

川に学ぶ社会を全国各地域に広めることを目的とする当交流会は、平成10年度から平成12年度までは国主導で実施されてきましたが、平成13年度からはRACの構成団体を事務局に、流域主導で開催されるようになりました。開催地の会員団体が主体となり、開催地及び開催地の関係機関のご協力をいただきながら開催させていただいております。

【開催年 開催地 主な流域】

平成13年	第1回大会	岡山県岡山市・旭川	平成25年	第13回大会	新潟県見附市・信濃川流域
平成14年	第2回大会	福岡県北九州市・紫川	平成26年	第14回大会	宮崎県延岡市・五ヶ瀬川
平成15年	第3回大会	徳島県徳島市・吉野川	平成27年	第15回大会	北海道ニセコ町・尻別川
平成16年	第4回大会	福井県武生市・日野川	平成28年	第16回大会	大阪府寝屋川市・淀川・琵琶湖流域圏
平成17年	第5回大会	福島県会津若松市・阿賀川	平成29年	第17回大会	福岡県北九州市・紫川
平成18年	第6回大会	東京会場	平成30年	第18回大会	茨城県取手市・小貝川利根川水系
平成19年	第7回大会	岐阜県岐阜市・長良川	令和元年	第19回大会	北海道滝川市・石狩川
平成20年	第8回大会	熊本県熊本市・緑川、白川、球磨川、菊池川	令和2年	(新型コロナウイルスにより中止)	
平成21年	第9回大会	広島県広島市・太田川	令和3年	第20回大会	青森県三沢市・小川原湖
平成22年	第10回大会	鹿児島県薩摩川内市・川内川	令和4年	第21回大会	東京都千代田区・荒川
平成23年	第11回大会	神奈川県横浜府・鶴見川流域	令和5年	第22回大会	福井県福井市・九頭竜川
平成24年	第12回大会	岩手県盛岡市・北上川流域			

編集後記

文責：田中謙次

平成15年春、私は突如として父(環境文化研究所元代表)からRAC全国大会の運営を託されました。RACという組織の存在すら知らなかった私は、インターネットで情報をかき集め、それが川のリーダー育成を目的とした団体であることを知りました。大野重男(RAC元代表理事)、斉藤隆(RAC元事務局長)両氏とともに、多くの常任理事が来訪され、大会の本質についてご教示くださいました。行政主導から流域主導へと改変を求められた私は、従来の資料を一切使わないこと、運営は少数精鋭で行うこと、そしてもし批判が出際には実行委員会が補佐することを求めました。当時30代という年齢を含め、今思えばかなり生意気でした。

運営チームは、地域創造に励む大学生、地元青年会議所の元理事長、地元商工会議所と私の4人で構成しました。大会が迫る中、数日に一度集まり、夜遅くまで議論を重ねました。新たな方法での運営には批判もありましたが、殆どは渡邊光一氏(日野川流域交流会元代表)に守っていただきました。

大会の2ヶ月前、足羽川での大洪水により開催が危ぶまれましたが、この困難を乗り越えようと全国から集まる皆さんと力を合わせ、フィールド体験を通して新たな問題に取り組む良い機会となり、交流会では盆踊りで一体となることができました。それから19年の時を経て再び開催されたこの大会は、ライブ感溢れる内容で、参加者にとって有益な時間となることを第一に考えました。クロストークは結論が出にくい場合がありますが、そこで出た課題

は各地域、RACフォーラムや理事会で、継続的に議論されることを期待しています。そしてこの度、「大会宣言」を新たに行いました。RACの活動と日本水大賞の受賞を経て、水難事故のない社会への貢献という我々の志を全国に伝えることの重要性を強調しました。

今回の大会にこめた思いについて、今年は特に水難事故が多発し、その多くはライフジャケットの未着用が原因でした。より多くの方がRACを知っていたら、ライフジャケットを着て川に入っていたらなど、歯痒い思いが増していくばかりでした。今大会では、そんなジレンマを少しでも解決に向け前進するきっかけになることを願い、今回のテーマを設けました。

基調講演では、動画配信者であるKazu氏をお招きすることで、RACの構成団体と一般の方の架け橋になっていただくことをねらいとし、ご講演いただきました。また前例が無い、動画クリエイターによる講演で、RACにとっても新たなムーブメントを起こす呼び水となればという思いもありました。

運営に際しては、さらに少数精鋭で実施しました。実行委員会はWEB中心で、運営部会もチャットを使いながら進めていきました。また、全国のRAC指導者の方々にも、記録などの運営面でご協力いただき、地元の実行委員会だけでなく全国の皆さんとつくり上げた大会となりました。

実は、福井での開催は令和6年を望んでいました。北陸新幹線の開通後にお越しいただきたかったからです。結局、開通に合わせる事が出来ず令和5年の開催となり

ましたが、「さよなら、しらさぎ・サンダーバード」というキーワードで、お越しただけたことは、逆に喜ばしいことでした(新幹線開通後も名古屋・大阪からのしらさぎ・サンダーバードは敦賀駅までご利用できます)。エクスカッションでは、水辺の体験に加えて、流域のテロワール料理の魅力もお楽しみいただけたと思います。

最後に、運営部会や実行委員会、サイトツアーとエクスカッションに協力してくださった皆様、当日の運営をサポートしてくださった方々、そして全国から参加してくださった皆様に、心からの感謝を申し上げます。RACの一層の発展と水難事故ゼロを心より願っています。



終了後に、福井駅を出発。「また来年会いましょう！」

第22回「川に学ぶ体験活動」全国大会in越前若狭 実行委員会（順不同・敬称略）

実行委員長	坂本 均	ノーム自然環境教育事務所 代表
副実行委員長	宮尾博一	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 代表理事
実行委員	辻田英幸	国土交通省近畿地方整備局河川部河川環境課 建設専門官
実行委員	橋本 亮	近畿地方整備局福井河川国道事務所 事務所長
実行委員	久野茂嗣	福井県土木部河川課 課長
実行委員	下川 勇	福井工業大学工学部建築土木工学科 教授
実行委員	田中謙次	一般社団法人環境文化研究所 代表理事
実行委員	谷美沙希	一般社団法人環境文化研究所 研究員
実行委員	長 知寛	一般社団法人環境文化研究所 研究員
実行委員	細川和朗	NPO法人自然体験共学センター 理事長
実行委員	大門正悟	坂井市竹田農山村交流センター 支配人
実行委員	辻 英之	NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター 代表理事
実行委員	齋藤 隆	NPO法人小貝川プロジェクト21 副理事長
事務局	田中彩愛	一般社団法人環境文化研究所 研究員
事務局	大井里美	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 事務局長

運営部会（順不同・敬称略）

坂本 均	ノーム自然環境教育事務所 代表
田中謙次	一般社団法人環境文化研究所 代表理事
田中彩愛	一般社団法人環境文化研究所 研究員
谷美沙希	一般社団法人環境文化研究所 研究員
長 知寛	一般社団法人環境文化研究所 研究員
大谷祐司郎	国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所 河川占用調整課 占用調整管理官
林 尚典	国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所 流域治水課長
銅 幸久	福井県土木部河川課 河川管理グループ総括主任
丸中孝通	福井県土木部河川課 河川計画グループ主任

ご協力いただきました

全ての方と川に感謝します。

Thank you to all and the river.

第22回「川に学ぶ体験活動」全国大会in越前若狭 報告書

発行日／令和6年3月1日

発行者／第22回「川に学ぶ体験活動」全国大会in越前若狭実行委員会

執筆者／齋藤 隆、佐藤繁一、佐藤ともえ、菅原正徳

田中清也、谷美沙希、山田大志

編集者／田中謙次

撮影者／齋藤 隆、佐藤繁一、佐藤ともえ、菅原正徳、大門正悟

田中謙次、田中清也、長 知寛、山田大志

イラスト／谷 美月

装丁・デザイン／田中謙次

事務局／一般社団法人環境文化研究所

福井県越前市国高二丁目324-7

電話(0778)25-6051

rac22.fukui@gmail.com

© Copyright, 第22回「川に学ぶ体験活動」全国大会in越前若狭 実行委員会,2023

本書を無断で複製（電子化を含む）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。また本書を代行業者などの第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用であっても一切認められません。

You Tubeおよびロゴは、Google LLCの商標です。
Instagramおよびロゴは、Meta Platforms, Inc.の登録商標です。
Tik TokおよびロゴはPte.Ltd.の商標または登録商標です。
Osmo Action, OsmoはDe-Jiang Innovations Science and Technology Co., Ltd.の商標または登録商標です。



Real Safety

知識だけじゃない、実践で命を守る。